

様式1 第2期北海道アルコール健康障害対策推進計画に係る取組状況一覧

<評価欄の見方>
A：取組は概ね達成（実施）した（取組としては終了）。
B：取組は概ね達成（実施）した（引き続き取り組む必要がある）。
C：取組は一定程度進んでいる。
D：取組はあまり進んでいない。

資料1

発生予防（一次予防）
（1）教育、広報等による普及啓発の推進

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
○20歳未満の者、若い世代、妊産婦、女性や高齢者等への飲酒のリスクに関する教育や啓発の推進	・学校教育においては、引き続き、飲酒が心身に及ぼす影響等を正しく認識させ、20歳未満の段階では飲酒をしないという判断力や態度、生涯にわたって健康の保持増進する資質・能力を養うよう教育を実施します。	R3	小・中・高等学校の学習指導要領（体育・保健体育）を基に体育・保健体育・保健授業で児童・生徒に指導した。	B	北海道教育委員会
		R4	小・中・高等学校の学習指導要領（体育・保健体育）を基に体育・保健体育・保健授業で児童・生徒に指導した。	B	
		R5	小・中・高等学校の学習指導要領（体育・保健体育）を基に体育・保健体育・保健授業で児童・生徒に指導する。		
		R6			
		R7			
		R3	学校薬剤師が学校教育で活用できるよう、小学生、中学生・高校生の発達段階に応じた健康教育教材を作成し、その中に飲酒防止教育について掲載している。	B	北海道薬剤師会
		R4	学校薬剤師が学校教育で活用できるよう、小学生、中学生・高校生の発達段階に応じた健康教育教材を作成し、その中に飲酒防止教育について掲載している。	B	
		R5	学校薬剤師が学校教育で活用できるよう、小学生、中学生・高校生の発達段階に応じた健康教育教材を作成し、その中に飲酒防止教育について掲載する。		
		R6			
		R7			
		R3	1年目学生を対象に、アルコール健康障害に関する講義を実施して、飲酒のリスクを啓発した。	B	北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室
		R4	1年目学生を対象に、アルコール健康障害に関する講義を実施して、飲酒のリスクを啓発した。	B	
		R5	1年目学生を対象に、アルコール健康障害に関する講義を実施して、飲酒のリスクを啓発する。		
		R6			
		R7			
		R3	医学部の学生を対象としたミーティングの際等に、学生に対して、飲酒のリスクやアルコール健康障害に関する啓発を行った。	B	札幌医科大学医学部神経精神医学講座
		R4	医学部の学生グループ制ミーティングの際に、特に新1年生に対して、飲酒のリスクやアルコール健康障害に関する啓発を行った。	B	
		R5	医学部の学生グループ制ミーティングの際に、学生に対して、飲酒のリスクやアルコール健康障害に関する啓発を行う。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
	・20歳未満の者や大学生などの若い世代に対して、飲めない体質や飲酒のリスク等アルコール健康障害に関する啓発資料の作成、配布や自助グループの当事者等を講師とした学習機会等を通じて、アルコール健康障害に対する正しい知識の普及啓発を図ります。	R3	啓発資料(AUDIT、アルコール健康障害ポスター)を当課ホームページ(依存症対策支援機関アクセスマップ)に掲載し、関係機関へ周知した。 モデル大学普及啓発事業についてモデル大学の協力・連携による「依存症Web講演会」(10/19オンライン開催)を企画実施し、当事者体験談も含む講演を行った。 普及啓発セミナー(11/27オンライン開催)を企画、関係機関、道内大学へ周知し実施した。 大学生に向けた啓発用の依存症リーフレットを作成し、大学学生相談室あて送付し相談での活用を依頼した。	B	保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課
		R4	啓発資料やホームページ等を活用し普及啓発を行った。オンライン道民健康セミナーを開催(8/6午後オンライン開催・8/8～8/22オンデマンド配信)した(当日視聴26人・オンデマンド配信視聴101人)。プログラム:アルコール摂取と健康への影響(北海道大学病院 消化器内科 中井医師)、お酒のことで困ったら(手稲溪仁会病院精神保健科 白坂医師)	B	
		R5	啓発資料やホームページ等を活用し普及啓発を行うほか、道民を対象とした普及啓発セミナーを企画する。		
		R6			
		R7			
		R3	必要に応じて、各市町村へ情報提供を行った。	B	道立保健所
		R4	必要に応じて、関係機関等へ情報提供を行った。	B	
		R5	必要に応じて、関係機関等へ情報提供を行う。		
		R6			
		R7			
		R3	未成年者飲酒防止月間における普及・啓発(4月)	B	保健福祉部健康安全局地域保健課
		R4	未成年者飲酒防止月間における普及・啓発(4月)	B	
		R5	未成年者飲酒防止月間における普及・啓発(4月)		
		R6			
		R7			
		R3	「児童・生徒向け飲酒運転根絶教育パンフレット」(小学1年生向け・中学1年生向け・高校1年生向け)を作成し道内の小・中・高校等に配布	B	環境生活部くらし安全局道民生活課交通安全担当
		R4	「児童・生徒向け飲酒運転根絶教育パンフレット」(小学1年生向け・中学1年生向け・高校1年生向け)を作成し道内の小・中・高校等に配布した。	B	
		R5	「児童・生徒向け飲酒運転根絶教育パンフレット」(小学1年生向け・中学1年生向け・高校1年生向け)を作成し道内の小・中・高校等に配布する。		
		R6			
		R7			
		R3	関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。		北海道医師会
		R4	関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。		
		R5	依頼に基づき、協力を検討いたします。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	アルコール問題での来院ではない患者、家族に関しても、アルコール問題が潜んでいないか留意する。	B	北海道精神神経科診療所協会
		R4	アルコールの問題を持つ患者に対して診療を行い、アルコール問題での来院ではない患者、家族に関しても、アルコール問題が潜んでいないか留意する。	B	
		R5	アルコールの問題を持つ患者に対して診療を行い、アルコール問題での来院ではない患者、家族に関しても、アルコール問題が潜んでいないか留意する。		
		R6			
		R7			
		R3	第5回薬物乱用防止キャンペーンin北海道において、アルコールの注意点について啓発した。	B	北海道薬剤師会
		R4	第6回薬物乱用防止キャンペーンin北海道において、アルコールの注意点についての啓発した。	B	
		R5	第7回薬物乱用防止キャンペーンin北海道において、アルコールの注意点について啓発する予定である。		
		R6			
		R7			
		R3	本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、道民への啓発活動に取り組んだ。	C	北海道臨床心理士会
		R4	・本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、道民への啓発活動に取り組んだ。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席 ・新年度より新たにアディクション担当者を設置し、より専門的な活動を行った。	B	
		R5	・本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、会員への情報提供に努める。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席		
		R6			
		R7			
		R3	必要に応じての情報提供	B	北海道精神保健福祉士協会
		R4	必要に応じての情報提供	B	
		R5	必要に応じての情報提供（継続）		
		R6			
		R7			
		R3	教育現場に携わる関係者を対象者に含めた研修を行い、自助グループのアディクション当事者を講師として迎えているがコロナウィルスの影響により今年度の見通しは不明である。会員のオンライン例会の開催にとどまり対外的なものは実施できていない。	D	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部
		R4	R3同様の活動を目指していく。コロナ禍により対外的な活動に制限が多くあり具体的な活動は困難であった。	C	
		R5	コロナ禍により停滞していた例会の定期開催により情報交換を活性化し具体的な活動方針を打ち出す。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度 令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		<p>・家族を対象とした「家族セミナー」を開催し、専門医療機関の医師による講話・自助グループの紹介・体験談発表・自助グループメンバーによる相談会などを実施した。</p> <p>R3 ・当センター作成の「依存症相談窓口・依存症専門医療機関周知チラシ」及び各種リーフレット類の配架、当センターホームページ・SNS等においての情報発信を行い、普及啓発を図った。</p> <p>・教育機関より問い合わせがあり、授業でアルコール依存症を学ぶための資料について情報提供した。</p>	B	札幌こころのセンター
		<p>R4 ・「家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行った。（第1回8/3(3名参加)、第2回1/18(6名参加)開催。第3回3/10開催予定。）</p> <p>・啓発週間でのポスター掲示や、チラシ・リーフレット等の配布、依存症に関する情報や取組を当センターホームページ・SNS等に掲載し、情報発信を行った。</p>	B	
		<p>R5 ・「家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行う。</p> <p>・啓発週間でのポスター掲示や、チラシ・リーフレット等の配布、依存症に関する情報や取組を当センターホームページ・SNS等に掲載し、情報発信を行う。</p>		
		R6		
		R7		
		R3 作業療法士養成施設学生への教育を通じた啓発	B	北海道作業療法士会
		R4 作業療法士養成施設学生への教育を通じた啓発（継続）	B	
		R5 作業療法士養成施設学生への教育を通じた啓発（継続）		
		R6		
		R7		
		R3 HPでリンクを貼り周知を図った。また、事業主セミナーを通じ啓発を図った。	B	北海道産業保健総合支援センター
		R4 HP、メールマガジンによる啓発。事業主セミナーを通じ啓発を図った。	B	
		R5 HP、メールマガジンによる啓発。事業主セミナーを通じ啓発。		
		R6		
		R7		
		R3 医学部の精神医学の講義の1コマで「アルコール依存症」を取り上げ、アルコール健康障害に対する正しい知識の普及啓発を図った。	B	札幌医科大学医学部神経精神医学講座
		R4 医学部の精神科関連講義等で「アルコール依存症」を取り上げ、アルコール健康障害に対する正しい知識の普及啓発を図った。	B	
		R5 医学部の精神科関連講義・実習等で「アルコール依存症」を取り上げ、アルコール健康障害に対する正しい知識の普及啓発を図る。		
		R6		
		R7		

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	依存症の観点から、家庭環境や人間関係において、飲酒行動に引き込まれる要因、飲酒がもたらす変容を経験に基づいて伝えた。	B	札幌マック
		R4	依存症の観点から、家庭環境や人間関係において、飲酒行動に引き込まれる要因、飲酒がもたらす変容を経験に基づいて伝え、医療機関の紹介をした。	B	
		R5	依存症の観点から、家庭環境や人間関係において、飲酒行動に引き込まれる要因、飲酒がもたらす変容を経験に基づいて伝え、医療機関の紹介をする。		
		R6			
		R7			
		R3	依存症の観点から、家庭環境や人間関係において、飲酒行動に引き込まれる要因、飲酒がもたらす変容を経験に基づいて伝えた。	B	札幌マック女性共同作業所
		R4	「依存症の観点から、家庭環境や人間関係において、飲酒行動に引き込まれる要因、飲酒がもたらす変容を経験に基づいて伝え、医療機関の紹介もする。」と計画したが、事業所の都合により7月より受け入れを一時休止としている。	D	
		R5	依存症の観点から、家庭環境や人間関係において、飲酒行動に引き込まれる要因、飲酒がもたらす変容を経験に基づいて伝え、医療機関の紹介もする。		
		R6			
		R7			
		R3	教育・広報として大学等にて当法人のPSWスタッフ及び当事者スタッフが講義の中で依存症の理解と回復のプロセスを普及した。	B	青十字サマリヤ会
		R4	教育・広報として大学等にて当法人のPSWスタッフ及び当事者スタッフが講義の中で依存症の理解と回復のプロセスを普及する。	B	
		R5	教育・広報として大学等にて当法人のPSWスタッフ及び当事者スタッフが講義の中で依存症の理解と回復のプロセスを普及する。		
		R6			
		R7			
	・「青少年の非行・被害防止道民総ぐるみ運動強調月間」（7月）、「子供・若者育成支援強化月間」（11月）等の啓発イベントを活用して、20歳未満の者を対象とした普及啓発活動を推進します。	R3	各強調月間において、酒類の販売窓口における年齢確認の徹底などの「有害環境への適切な対応」を重点課題の一つとして普及啓発活動を推進	B	環境生活部くらし安全局道民生 活課青少年係
		R4	各強調月間において、酒類の販売窓口における年齢確認の徹底などの「有害環境への適切な対応」を重点課題の一つとして普及啓発活動を推進	B	
		R5	各強調月間において、酒類の販売窓口における年齢確認の徹底などの「有害環境への適切な対応」を重点課題の一つとして普及啓発活動を推進		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
	・母子手帳交付時等において、市町村と連携し、妊婦に対して飲酒の有無の確認や飲酒が自分自身や胎児・乳児に及ぼすリスクについて説明し、妊娠中や授乳期間の禁酒についての保健指導が行われるよう促すとともに、家族間で共有し、未然に防ぐことができるよう促します。	R3	市町村保健師等を対象に母子保健対策の強化や研修会を通じて知識の普及を図ることとしていたが、オンラインによる研修のためリーフレット等による周知はできていない。	C	保健福祉部子ども未来推進局子ども子育て支援課
		R4	市町村保健師等を対象とした研修会において、リーフレットを配置し、知識の普及を図った。（3回）	B	
		R5	市町村保健師等を対象に母子保健対策の強化や研修会を通じて知識の普及を図る。		
		R6			
		R7			
	・市町村と連携し、高齢者に対し、過度な飲酒が自分自身の健康問題を引き起こすリスクになることを説明し、節度ある適度な飲酒を心がけるよう促します。	R3	治療拠点機関が作成した高齢者のアルコール健康障害パンフレット（高齢者とお酒の話）について、保健所あて周知し活用を促した（R3年7月）。	B	保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課
		R4	オンライン道民健康セミナー（8/6）について周知した。	B	
		R5	適宜、高齢者のアルコール健康障害に関する情報について周知する。		
		R6			
		R7			
		R3	高齢者の相談業務等に活用できる参考資料として依存症治療拠点機関が作成したパンフレット（高齢者とお酒の話）について、市町村及び地域包括支援センターに周知し活用を促した。	B	保健福祉部高齢者支援局高齢者保健福祉課
		R4	市町村や地域包括支援センター等を対象に、オンライン道民健康セミナー（8/6）の開催について周知した。	B	
		R5	市町村や地域包括支援センター等を対象としたリーフレット類の配布等による普及啓発活動の展開について検討。		
		R6			
		R7			
		R3	関係団体などからの依頼がなく、対応していません。		北海道医師会
		R4	関係団体などからの依頼がなく、対応していません。		
		R5	依頼に基づき、協力を検討いたします。		
		R6			
		R7			
		R3	日々の臨床において、うつ病や逸脱行為の背景に潜むアルコール問題の早期発見に努める。	B	北海道精神神経科診療所協会
		R4	日々の臨床において、うつ病や逸脱行為の背景に潜むアルコール問題の早期発見に努める。	B	
		R5	日々の臨床において、うつ病や逸脱行為の背景に潜むアルコール問題の早期発見に努める。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、道民への啓発活動に取り組んだ。	C	北海道臨床心理士会
		R4	・本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、道民への啓発活動に取り組んだ。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席 ・新年度より新たにアディクション担当者を設置し、より専門的な活動を行った。	B	
		R5	・本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、会員への情報提供に努める。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席		
		R6			
		R7			
		R3	会員個々の活動地域の自治体との連携	B	北海道精神保健福祉士協会
		R4	会員個々の活動地域の自治体との連携	B	
		R5	会員個々の活動地域の自治体との連携（継続）		
		R6			
		R7			
		R3	機関誌「心の健康」に適宜掲載するとともに、15地方協会の普及・啓発事業と連携して取り組んでいくこととしていたが、今年度は取り組むことができなかった。	D	北海道精神保健協会
		R4	機関誌「心の健康」に適宜掲載するとともに、15地方協会の普及・啓発事業と連携して取り組んでいくこととしていたが、今年度は取り組むことができなかった。	D	
		R5	機関誌「心の健康」に適宜掲載するとともに、15地方協会の普及・啓発事業と連携して取り組んでいく。		
		R6			
		R7			
		R3	高齢者支援にも携わっている会員が複数いるため、各々の現場で必要・適切な対応を行う。会員が所属する現場で高齢患者の処遇に対する情報提供や助言を行った。	C	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部
		R4	高齢者の飲酒関連問題対策が喫緊の課題となっていることから協会本部の研修などを通じて情報発信をしていく。コロナ禍にあって病院所属の会員が中心なため活動に制限が多くあり具体的な活動は困難であった。	C	
		R5	各会員の所属機関での取り組みや実情を集積して、さらに変動しつつある高齢者の飲酒関連問題への対応を検討をしていく		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	<ul style="list-style-type: none"> ・家族を対象とした「家族セミナー」を開催し、専門医療機関の医師による講話・自助グループの紹介・体験談発表・自助グループメンバーによる相談会などを実施した。 ・当センター作成の「依存症相談窓口・依存症専門医療機関周知チラシ」及び各種リーフレット類の配架、当センターホームページ・SNS等においての情報発信を行い、普及啓発を図った。 ・地域における生活を支援する機関の職員を対象に、高齢者と依存症問題をテーマにした研修会及び事例検討会を依存症治療拠点機関へ委託して開催した。 	B	札幌こころのセンター
		R4	<ul style="list-style-type: none"> ・「家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行った。（第1回8/3(3名参加)、第2回1/18(6名参加)開催。第3回3/10開催予定。） ・啓発週間でのポスター掲示や、チラシ・リーフレット等の配布、依存症に関する情報や取組を当センターホームページ・SNS等に掲載し、情報発信を行った。 ・依存症相談窓口等において、高齢者を支援する機関より相談があった際には、必要時専門医療機関及び自助グループにつなぐ等、支援を行った。 ・地域における生活を支援する機関の職員を対象に、高齢者と依存症問題をテーマにした研修会及び事例検討会を依存症治療拠点機関へ委託して開催した。（第1回10/28、第2回12/9開催。第3回2/17開催予定。） 	B	
		R5	<ul style="list-style-type: none"> ・「家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行う。 ・啓発週間でのポスター掲示や、チラシ・リーフレット等の配布、依存症に関する情報や取組を当センターホームページ・SNS等に掲載し、情報発信を行う。 ・依存症相談窓口等において、高齢者を支援する機関より相談があった際には、必要時専門医療機関及び自助グループにつなぐ等、支援を行う。 		
		R6			
		R7			
		R3	会員作業療法士への啓発を通じた地域高齢者への知識普及	B	北海道作業療法士会
		R4	会員作業療法士への啓発を通じた地域高齢者への知識普及（継続）	B	
		R5	会員作業療法士への啓発を通じた地域高齢者への知識普及（継続）		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
	・特定健診・特定保健指導の実施においては、医療保険者及び産業医と連携し、飲酒習慣や飲酒量を確認し、適度な飲酒についての保健指導が行われるよう促します。	R3	特定健診保健指導従事者に対する研修会や各種会議における適正飲酒の情報提供	B	保健福祉部健康安全局地域保健課
		R4	特定健診保健指導従事者に対する研修会や各種会議における適正飲酒の情報提供	B	
		R5	特定健診保健指導従事者に対する研修会や各種会議における適正飲酒の情報提供		
		R6			
		R7			
		R3	関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。	B	北海道医師会
		R4	生活習慣病予防のための人材育成研修会～特定健診・特定保健指導従事者 初任者研修～のプログラムの中で「保健指導におけるアルコール使用障害スクリーニング（AUDIT）と減酒支援」について講演を行った。		
		R5	依頼に基づき、協力を検討いたします。		
		R6			
		R7			
		R3	産業医研修会（10/28）、事業主セミナー（9/30）を開催し周知を図った。	B	北海道産業保健総合支援センター
		R4	産業医兼研修会の開催、事業主セミナーの開催はできなかった。	C	
		R5	産業医兼研修会の開催、事業主セミナーの開催を開催する。		
		R6			
		R7			
○依存症に対する誤解や偏見の解消に向けた正しい知識・理解の啓発の推進	・アルコール関連問題啓発週間（11月10日～16日）において、自助グループや各種団体等を通じて、20歳未満の者、若い世代、妊産婦、女性、高齢者など特有の影響に留意すべき者の飲酒に伴うリスクや適度な飲酒に関する正しい知識、アルコール依存症の初期症状等について普及啓発を図ります。	R3	啓発週間では、アルコール関連問題啓発週間ポスターを関係機関に配布し啓発を依頼、SNSでの掲載(北海道健康づくりTwitter)やイベントでの配布による周知。当課ホームページ(依存症対策支援機関アクセスマップ)掲載、関係機関への周知依頼、道庁1階のホール等を活用したポスターの掲示、リーフレット等設置(10/15～10/17)による普及啓発を実施した。	B	保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課
		R4	啓発週間では、アルコール関連問題啓発週間ポスターを関係機関に配布し啓発を依頼、SNSでの掲載(北海道健康づくりTwitter)やイベントでの配布による周知。当課ホームページ(依存症対策支援機関アクセスマップ)掲載、関係機関への周知依頼、道庁1階のホール等を活用したポスターの掲示、リーフレット等設置(11/11、11/14)による普及啓発を実施した。	B	
		R5	啓発資料やホームページ等を活用し普及啓発を行う。		
		R6			
		R7			
		R3	アルコール関連問題啓発ポスターの掲示や保健所のホームページ、地域の新聞等へアルコール関連問題や相談先を掲載し周知した。	B	道立保健所
		R4	アルコール関連問題啓発ポスターの掲示や保健所のホームページ、地域の新聞等へアルコール関連問題や相談先を掲載し周知した。	B	
		R5	アルコール関連問題啓発ポスターの掲示や保健所のホームページ、地域の新聞等へアルコール関連問題や相談先を掲載し周知する。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	担当課から送付されたアルコール関連問題啓発ポスター等を課内回覧及び掲示	B	保健福祉部子ども未来推進局 子ども子育て支援課
		R4	担当課から送付されたアルコール関連問題啓発ポスター等を課内回覧及び掲示	B	
		R5	担当課から送付されたアルコール関連問題啓発ポスターについて課内掲示を行う。		
		R6			
		R7			
		R3	アルコール関連問題の啓発ポスターの掲示やホームページを活用し周知を図った。	B	北海道立精神保健福祉センター
		R4	アルコール関連問題の啓発ポスターの掲示やホームページを活用し周知を図った。	B	
		R5	アルコール関連問題の啓発ポスターの掲示やホームページを活用し周知を図る。		
		R6			
		R7			
		R3	20歳未満の飲酒が発達段階にある体の成長に様々な影響をもたらすとともに、これらの行為が非行や犯罪への第一歩ともなることから、早い段階での適切な対策に努めた。	B	環境生活部くらし安全局道民生 活課青少年係
		R4	20歳未満の飲酒が発達段階にある体の成長に様々な影響をもたらすとともに、これらの行為が非行や犯罪への第一歩ともなることから、早い段階での適切な対策に努める。	B	
		R5	20歳未満の飲酒が発達段階にある体の成長に様々な影響をもたらすとともに、これらの行為が非行や犯罪への第一歩ともなることから、早い段階での適切な対策に努める。		
		R6			
		R7			
		R3	関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。	B	北海道医師会
		R4	関係団体などからの依頼により、アルコール関連問題啓発ポスターを北海道医報に同封し周知を行った。		
		R5	依頼に基づき、協力を検討いたします。		
		R6			
		R7			
		R3	—	C	北海道精神科病院協会
		R4	公的機関等の依頼に応じ、予防活動の支援を検討		
		R5	公的機関等の依頼に応じ、予防活動の支援を検討		
		R6			
		R7			
		R3	うつ病や逸脱行為の背景に潜むアルコール問題の早期発見に努め、酒害教育を実施する。	B	北海道精神神経科診療所協会
		R4	うつ病や逸脱行為の背景に潜むアルコール問題の早期発見に努め、酒害教育を実施する。自助グループに関する情報提供を行う。	B	
		R5	うつ病や逸脱行為の背景に潜むアルコール問題の早期発見に努め、酒害教育を実施する。自助グループに関する情報提供を行う。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	令和3年度「アルコール関連啓発週間」啓発ポスター館内掲示（令和3年11月）、令和3年度ギャアンプル等依存症・アルコール健康障 がい普及啓発セミナーのオンデマンド配信について当会ホームページで周知（令和3年12月）	B	北海道看護協会
		R4	アルコール健康障害に係る「北海道オンライン道民健康セミナー」の開催について当会ホームページで周知（令和4年7月）・ポスター 館内掲示（令和4年7月）、令和4年度「アルコール関連問題啓発週間」啓発ポスター館内掲示（令和4年11月）	B	
		R5	セミナー等当会のホームページに掲載予定、ポスターの館内掲示等による普及啓発予定		
		R6			
		R7			
		R3		B	北海道栄養士会
		R4	・令和4年度「アルコール関連啓発週間」啓発ポスターを当会役員(会員)所属の施設内に掲示依頼を行った。（令和4年11月） ・令和4年度セミナー等を本会のホームページに掲載予定	B	
		R5	・令和5年度「アルコール関連啓発週間」啓発ポスターを当会役員(会員)所属の施設内に掲示依頼を行う予定。（令和5年11月）		
		R6			
		R7			
		R3	本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、道民への啓発活動に 取り組んだ。	C	北海道臨床心理士会
		R4	・本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、道民への啓発活動 に取り組んだ。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席 ・新年度より、医療保健領域委員会内に、新たにアディクション担当者を設置し、より専門的な活動を行った。 ・ZOOMにて依存症支援についての情報交流会を開催し、当会会員の依存症支援についての知識と技術の向上を図った。	B	
		R5	・本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、会員への情報提供 に努める。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席		
		R6			
		R7			
		R3	幅広い情報提供を行っていく	B	北海道精神保健福祉士協会
		R4	幅広い情報提供を行っていく	B	
		R5	幅広い情報提供を行っていく（継続）		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	関連行事等に積極的に会員を派遣し、協力・実践を行いたい、今年度に関してはコロナウィルスの影響により未定である。行事等の開催が縮小されており、思うように関与できていない。	D	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部
		R4	感染状況を踏まえてオンライン等を通じて情報発信を目指していきたい。コロナ禍にあって病院所属の会員が中心なため活動に制限が多くあり具体的な活動は困難であった。	C	
		R5	R4同様の活動を目指していく。		
		R6			
		R7			
		R3	啓発週間期間に合わせて、相談窓口や区役所等においての普及周知チラシ・ポスターの掲示・配布、ホームページ、SNS等を利用した情報発信を行い、市民に対しアルコール健康障害や依存症についての普及啓発を図った。	B	札幌こころのセンター
		R4	啓発週間期間に合わせて、相談窓口や区役所等においてポスター掲示を行った他、通年でチラシ・リーフレット等の配布、ホームページ、SNS等を利用した情報発信を行い、市民に対しアルコール健康障害や依存症についての普及啓発を図った。	B	
		R5	啓発週間期間に合わせて、相談窓口や区役所等においてポスター掲示を行う他、通年でチラシ・リーフレット等の配布、ホームページ、SNS等を利用した情報発信を行い、市民に対しアルコール健康障害や依存症についての普及啓発を図る。		
		R6			
		R7			
		R3	作業療法士養成施設等における啓発活動	B	北海道作業療法士会
		R4	作業療法士養成施設等における啓発活動（継続）	B	
		R5	作業療法士養成施設等における啓発活動（継続）		
		R6			
		R7			
		R3	HP、メールマガジンによる啓発を図った。	B	北海道産業保健総合支援センター
		R4	HP、メールマガジンによる啓発を図った。	B	
		R5	HP、メールマガジンによる啓発を行う。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	<p>依存症拠点医療機関（旭山病院）との共催でWEBセミナーを実施(4回開催した中で2回がアルコール問題。薬物1回、窃盗癖1回)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月20日に「アルコール依存症の診断・治療の行方」 講師：千歳病院院長芦澤健 ・2022年2月18日（啓発週間に開催予定であったが新型コロナウイルス感染症の影響で延期）「ここで出来るをつなげよう～アルコール依存症支援」講師元町総合クリニック、消化器内科、梅村真知子 	B	北海道アルコール保健医療と地域ネットワーク研究会
		R4	<p>R3同様に拠点病院と連携してZoom中心に年3～4回セミナーを実施。将来的には全国学会による他地域との連携をするため道内のアルコール関連問題についてのネットワークを強化する活動をしていきたい。</p> <p>北海道ネット主催研修として、依存症やひきこもりなどに対する基本的な面接技法である動機づけ面接セミナーを開催（参加者約50名）、共催でのZOOMセミナーを3回（8/5、11/4、3/24（予定））、北海道オンライン道民健康セミナーへの後援。</p> <p>また、アルコール健康障害対策基本法を推進することを目的とした民間組織であるアル法ネットに幹事団体として参画し、依存症対策の普及啓発に寄与した。</p>	B	
		R5	前年度と同様に年数回、専門職向けのセミナーを開催する予定		
		R6			
		R7			
		R3	街頭啓発活動を実施	B	北海道断酒連合会
		R4	街頭啓発活動等を実施	B	
		R5	街頭啓発活動等を実施（予定）		
		R6			
		R7			
		R3	病気の進行のプロセスと人間の変容、依存症者は何を病むのかを自身をモデルとして説明した。	B	札幌マック
		R4	病気の進行のプロセスと人間の変容、依存症者は何を病むのかを自身をモデルとして説明した。	B	
		R5	病気の進行のプロセスと人間の変容、依存症者は何を病むのかを自身をモデルとして説明する。		
		R6			
		R7			
		R3	病気の進行のプロセスと人間の変容、依存症者は何を病むのかを自身をモデルとして説明した。	B	札幌マック女性共同作業所
		R4	「病気の進行のプロセスと人間の変容、依存症者は何を病むのかを自身をモデルとして説明する。」と計画したが、事業所の都合により作業所を7月より一時休止としていたことから説明の機会が減った。	D	
		R5	病気の進行のプロセスと人間の変容、依存症者は何を病むのかを自身をモデルとして説明する。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
	・アルコール依存症は、飲酒をしていれば、誰でもなる可能性があること、飲酒をコントロールできなくなる精神疾患であること、家族等周囲にも影響を及ぼすこと、及び治療や断酒に向けた支援を行うことにより十分回復しうること、について普及啓発を図ります。	R3	啓発週間では、アルコール関連問題啓発週間ポスターを関係機関に配布し啓発を依頼、SNSでの掲載(北海道健康づくりTwitter)やイベントでの配布による周知。当課ホームページ(依存症対策支援機関アクセスマップ)掲載、関係機関への周知依頼、道庁1階のホール等を活用したポスターの掲示、リーフレット等設置(10/15～10/17)による普及啓発を実施した。 道ホームページ広報資料(10月号)にAUDIT、相談窓口を掲載。依存症Web講演会(10/19オンライン開催)、普及啓発セミナー(11/27オンライン開催)を企画実施した。 大学生に向けた啓発用の依存症リーフレットを作成し、大学学生相談室あて送付し相談での活用を依頼した。	B	保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課
		R4	啓発資料やホームページ等を活用し普及啓発を行った。アルコール健康障害・依存症予防啓発ポスターの配布(道医師会の7月医報同封により8,500部送付)した。オンライン道民健康セミナーを開催(8/6午後オンライン開催・8/8～8/22オンデマンド配信)した(当日視聴26人・オンデマンド配信視聴101人)。プログラム:アルコール摂取と健康への影響(北海道大学病院消化器内科 中井医師)、お酒のことで困ったら(手稲溪仁会病院精神保健科 白坂医師)	B	
		R5	啓発資料やホームページ等を活用し普及啓発を行うほか、道民を対象とした普及啓発セミナーを企画する。		
		R6			
		R7			
		R3	地域包括支援センター等を対象としたリーフレット類の配布等による普及啓発活動の展開を検討。	B	保健福祉部高齢者支援局高齢者保健福祉課
		R4	市町村や地域包括支援センターを対象に、アルコール関連問題啓発週間の周知を図るなどにより、広報の推進を図った。	B	
		R5	地域包括支援センター等を対象としたリーフレット類の配布等による普及啓発活動の展開を検討。		
		R6			
		R7			
		R3	関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。		北海道医師会
		R4	関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。		
		R5	依頼に基づき、協力を検討いたします。		
		R6			
		R7			
		R3	ー		北海道精神科病院協会
		R4	公的機関等の依頼に応じ、予防活動の支援を検討	C	
		R5	公的機関等の依頼に応じ、予防活動の支援を検討		
		R6			
		R7			
		R3	勉強会等については、コロナ禍であるため、今年度は見通しがたっていない。自助グループ等が実施した講演会などに参加、広報を行った。	C	北海道精神神経科診療所協会
		R4	自助グループ等の各種機関の勉強会や講演会の広報を行う。	B	
		R5	自助グループ等の各種機関の勉強会や講演会の広報を行う。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	第5回薬物乱用防止キャンペーンin北海道において、アルコールの注意点について啓発した。	B	北海道薬剤師会
		R4	第6回薬物乱用防止キャンペーンin北海道において、アルコールの注意点について啓発した。	B	
		R5	第7回薬物乱用防止キャンペーンin北海道において、アルコールの注意点についての啓発方法を検討する予定である。		
		R6			
		R7			
		R3	本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、道民への啓発活動に取り組んだ。	C	北海道臨床心理士会
		R4	・本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、道民への啓発活動に取り組んだ。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席 ・新年度より、医療保健領域委員会内に、新たにアディクション担当者を設置し、より専門的な活動を行った。 ・ZOOMにて依存症支援についての情報交流会を開催し、当会会員の依存症支援についての知識と技術の向上を図った。	B	
		R5	・本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、会員への情報提供に努める。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席		
		R6			
		R7			
		R3	関係機関との連携を図りながら、普及啓発に協力をしていく。	B	北海道精神保健福祉士協会
		R4	関係機関との連携を図りながら、普及啓発に協力をしていく。	B	
		R5	関係機関との連携を図りながら、普及啓発に協力をしていく。（継続）		
		R6			
		R7			
		R3	関係機関に所属する会員が逐次、必要適切な相談支援を通じて行う。	B	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部
		R4	R3同様の活動を目標としていく。実際に行った支援について例会にて共有した。	B	
		R5	R4同様の活動を目標としていく。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	・家族を対象とした「家族セミナー」を開催し、専門医療機関の医師による講話・自助グループの紹介・体験談発表・自助グループメンバーによる相談会などを実施した。 ・当センター作成の「依存症相談窓口・依存症専門医療機関周知チラシ」及び各種リーフレット類の配架、当センターホームページ・SNS等においての情報発信を行い、普及啓発を図った。	B	札幌こころのセンター
		R4	・「家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行った。（第1回8/3(3名参加)、第2回1/18(6名参加)開催。第3回3/10開催予定。） ・啓発週間でのポスター掲示や、チラシ・リーフレット等の配布、依存症に関する情報や取組を当センターホームページ・SNS等に掲載し、情報発信を行った。	B	
		R5	・「家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行う。 ・啓発週間でのポスター掲示や、チラシ・リーフレット等の配布、依存症に関する情報や取組を当センターホームページ・SNS等に掲載し、情報発信を行う。		
		R6			
		R7			
		R3	家族向けのパンフレットの作成を予定していたが、発行に至らなかった。	C	依存症治療拠点機関
		R4	家族向けのパンフレットの作成し発行した。	B	
		R5	家族向けパンフレットの活用の仕方などの工夫をおこなう。		
		R6			
		R7			
		R3	HP、メールマガジンによる啓発を図った。	B	北海道産業保健総合支援センター
		R4	HP、メールマガジンによる啓発を図った。	B	
		R5	HP、メールマガジンによる啓発を行う。		
		R6			
		R7			
		R3	医学部4年目学生を対象に、精神医学の講義の一環として、アルコール依存症を取り上げ、疫学・病態・症状・治療・予防について教育した。	B	北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室
		R4	医学部4年目学生を対象に、精神医学の講義の一環として、アルコール依存症を取り上げ、疫学・病態・症状・治療・予防について教育した。	B	
		R5	医学部4年目学生を対象に、精神医学の講義の一環として、アルコール依存症を取り上げ、疫学・病態・症状・治療・予防について教育する。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	臨床場面において、飲酒に伴う問題を有する場合等に、当事者や家族等に対して適宜必要な説明を行い、アルコール依存症やその治療等に関する知識の普及啓発を行った。	B	札幌医科大学医学部神経精神医学講座
		R4	臨床場面において、飲酒に伴う問題を有する場合等に、当事者や家族等に対して適宜必要な説明を行い、アルコール依存症やその治療等に関する知識の普及啓発を行った。	B	
		R5	臨床場面において、飲酒に伴う問題を有する場合等に、当事者や家族等に対して適宜必要な説明を行い、アルコール依存症やその治療等に関する知識の普及啓発を行う。		
		R6			
		R7			
		R3	依頼に応じて当事者による体験談等を実施	B	北海道断酒連合会
		R4	依頼に応じて当事者による体験談等を実施	B	
		R5	依頼に応じて当事者による体験談等を実施（見込）		
		R6			
		R7			
		R3	依存症からの回復のプログラム、そのプログラムを使った回復のプロセスを、具体的な行動で示した。	B	札幌マック
		R4	「若年者、高齢者、女性に向けた啓発資料を作成し、当事者側に理解できる内容の説明を行う」としていたが、思うように進めることができなかった。資料作成に時間を割くことができなかった。	D	
		R5	「若年者、高齢者、女性に向けた啓発資料を作成し、当事者側に理解できる内容の説明を行う」		
		R6			
		R7			
		R3	依存症からの回復のプログラム、そのプログラムを使った回復のプロセスを、具体的な行動で示した。	B	札幌マック女性共同作業所
		R4	「若年者、高齢者、女性に向けた啓発資料を作成し、当事者側に理解できる内容の説明を行う」としていたが、思うように進めることができなかった。事業所の都合により作業所を7月より一時休止とした。	D	
		R5	「若年者、高齢者、女性に向けた啓発資料を作成し、当事者側に理解できる内容の説明を行う」		
		R6			
		R7			
	・アルコール依存症に関する正しい知識と理解の促進について、自助グループと連携し、当事者の体験談や講演、活動の紹介を行うなど効果的な知識の普及につながるよう各種機会を通じて普及啓発を図ります。	R3	自助グループの活動を把握し情報共有を図るとともに、相談支援において自助グループ活動の周知、情報提供を行うなど連携を図った。	B	道立保健所
		R4	自助グループの活動を把握し情報共有を図るとともに、相談支援において自助グループ活動の周知、情報提供を行うなど連携を図った。	B	
		R5	自助グループの活動を把握し情報共有を図るとともに、相談支援において自助グループ活動の周知、情報提供を行うなど連携を図る。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	全道域で活動する精神保健福祉団体に対する支援協力を行った。 自助グループと連携し、アディクションフォーラム運営に対しては新型コロナウイルス感染症のまん延により開催はされていない。	B	北海道立精神保健福祉センター
		R4	全道域で活動する精神保健福祉団体に対する支援協力を行った。 支援を予定していた自助グループ主催のアディクションフォーラムは新型コロナウイルス感染症のまん延により開催はされなかった。	B	
		R5	全道域で活動する精神保健福祉団体等に対する支援協力を図る。		
		R6			
		R7			
		R3	関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。		北海道医師会
		R4	関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。		
		R5	依頼に基づき、協力を検討いたします。		
		R6			
		R7			
		R3	—		北海道精神科病院協会
		R4	公的機関等の依頼に応じ、予防活動の支援を検討	B	
		R5	公的機関等の依頼に応じ、予防活動の支援を検討		
		R6			
		R7			
		R3	勉強会等については、コロナ禍であるため、今年度は見通しがたっていない。自助グループ等が実施した講演会などに参加、広報を行った。	C	北海道精神神経科診療所協会
		R4	自助グループ等が実施する勉強会、講演会の普及活動を支援する。	B	
		R5	自助グループ等が実施する勉強会、講演会の普及活動を支援する。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、道民への啓発活動に取り組んだ。	C	北海道臨床心理士会
		R4	・本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、道民への啓発活動に取り組んだ。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席 ・新年度より、医療保健領域委員会内に、新たにアディクション担当者を設置し、より専門的な活動を行った。 ・ZOOMにて依存症支援についての情報交流会を開催し、当会会員の依存症支援についての知識と技術の向上を図った。	B	
		R5	・本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、会員への情報提供に努める。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席		
		R6			
		R7			
		R3	自助グループとの連携・支援	B	北海道精神保健福祉士協会
		R4	自助グループとの連携・支援	B	
		R5	自助グループとの連携・支援（継続）		
		R6			
		R7			
		R3	・依存症リカバリーソーシャルワークチームの活動 ・専門職の相談窓口、専門治療先の窓口の公開	C	北海道医療ソーシャルワーカー協会
		R4	・依存症リカバリーソーシャルワークチームの活動 ・専門職の相談窓口、専門治療先の窓口の公開	C	
		R5	・依存症リカバリーソーシャルワークチームの活動 ・専門職の相談窓口、専門治療先の窓口の公開		
		R6			
		R7			
		R3	今年度の開催があればアディクションフォーラムや各種セミナー等への参加・協力を通じて普及啓発に寄与するとともに会員間での情報共有を行う。感染状況が思わしくない中でオンラインでのミーティング等に少しずつ関われる状況ができていく。	C	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部
		R4	オンラインやハイブリッドなどの新たな発信や関与の方法を用いて感染状況に左右されない体制の構築を目指していく。当会の例会をオンライン形式で確立し、各会員が所属する機関でのオンラインやハイブリッド開催のミーティングについての情報交換と相互に助言などを行った。	B	
		R5	コロナウィルスの感染状況に配慮しながら停滞しがちであった自助グループや関連イベントへの参加を強化していく。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	・家族を対象とした「家族セミナー」を開催し、専門医療機関の医師による講話・自助グループの紹介・体験談発表・自助グループメンバーによる相談会などを実施した。 ・自助グループと依存症専門医療機関が協働開催した講座について、企画や周知に協力した。 ・自助グループが作成した機関紙について、相談窓口の他、区役所にも配架し、自助グループの活動について、より多くの市民への普及を図った。	B	札幌こころのセンター
		R4	・自助グループ等を講師とした「家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行った。（第1回8/3(3名参加)、第2回1/18(6名参加)開催。第3回3/10開催予定。） ・自助グループが作成する機関紙について、相談窓口の他、区役所にも配架し、自助グループの活動について、より多くの市民への普及を図った。	B	
		R5	・自助グループ等を講師とした「家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行う。 ・自助グループが作成する機関紙について、相談窓口の他、区役所にも配架し、自助グループの活動について、より多くの市民への普及を図る。		
		R6			
		R7			
		R3	依存症支援者研修会の中で、当事者に体験談を話してもらう場と活動紹介の場を設けた	B	依存症治療拠点機関
		R4	依存症支援者研修会の中で、当事者に体験談を話してもらう場などを設けた。	B	
		R5	依存症支援者研修会の中で、当事者に体験談を話してもらう場と活動紹介の場を継続して設ける。		
		R6			
		R7			
		R3	講座主催の勉強会で、当事者の体験談や自助グループ活動を学ぶ機会を持つように努めた。	B	札幌医科大学医学部神経精神医学講座
		R4	講座主催の勉強会で、当事者の体験談や自助グループ活動を学ぶ機会を持つように努めた。	B	
		R5	講座主催の勉強会で、当事者の体験談や自助グループ活動を学ぶ機会を持つように努める。		
		R6			
		R7			
		R3	依頼に応じて当事者による体験談等を実施	B	北海道断酒連合会
		R4	依頼に応じて当事者による体験談等を実施	B	
		R5	依頼に応じて当事者による体験談等を実施（予定）		
		R6			
		R7			
		R3	自助グループの治療的効果、永続的な必要性を、経験的知識をもって伝えた。	B	札幌マック
		R4	自助グループの治療的効果、永続的な必要性を、経験的知識をもって伝えた。	B	
		R5	自助グループの治療的効果、永続的な必要性を、経験的知識をもって伝える。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	自助グループの治療の効果、永続的な必要性を、経験的知識をもって伝えた。	B	札幌マック女性共同作業所
		R4	自助グループの治療の効果、永続的な必要性を、経験的知識をもって伝えた。事業所の都合により7月より作業所を一時休止としたことから、問い合わせが減少し、機会が減った。	D	
		R5	自助グループの治療の効果、永続的な必要性を、経験的知識をもって伝える。		
		R6			
		R7			
	・がんや循環器疾患をはじめとする生活習慣病や睡眠に及ぼす飲酒の影響やその他のアルコール関連問題に関する情報をホームページ等の周知ツールを用いて、職域・地域を含む社会全体に対し周知します。	R3	啓発週間では、アルコール関連問題啓発週間ポスターを関係機関に配布し啓発を依頼、SNSでの掲載(北海道健康づくりTwitter)やイベントでの配布による周知。当課ホームページ(依存症対策支援機関アクセスマップ)掲載、関係機関への周知依頼、道庁1階のホール等を活用したポスターの掲示、リーフレット等設置(10/15～10/17)による普及啓発を実施した。 道ホームページ広報資料(10月号)にAUDIT、相談窓口を掲載。依存症Web講演会(10/19オンライン開催)、普及啓発セミナー(11/27オンライン開催)を企画実施した。 大学生に向けた啓発用の依存症リーフレットを作成し、大学学生相談室あて送付し相談での活用を依頼した。	B	保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課
		R4	啓発資料やホームページ等を活用し普及啓発を行った。アルコール健康障害・依存症予防啓発ポスターの配布(道医師会の7月医報同封により8,500部送付)した。オンライン道民健康セミナーを開催(8/6午後オンライン開催・8/8～8/22オンデマンド配信)した(当日視聴26人・オンデマンド配信視聴101人)。プログラム:アルコール摂取と健康への影響(北海道大学病院消化器内科 中井医師)、お酒のことで困ったら(手稲溪仁会病院精神保健科 白坂医師)	B	
		R5	啓発資料やホームページ等を活用し普及啓発を行うほか、道民を対象とした普及啓発セミナーを企画する。		
		R6			
		R7			
		R3	ホームページ等により飲酒による影響等について普及啓発を行った。	B	道立保健所
		R4	ホームページ等により飲酒による影響等について普及啓発を行った。	B	
		R5	ホームページ等により飲酒による影響等について普及啓発を行う。		
		R6			
		R7			
		R3	関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。		北海道医師会
		R4	関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。		
		R5	依頼に基づき、協力を検討いたします。		
		R6			
		R7			
		R3	—		北海道精神科病院協会
		R4	公的機関等の依頼に応じ、予防活動の支援を検討	C	
		R5	公的機関等の依頼に応じ、予防活動の支援を検討		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	飲酒問題についてのパンフレットなどを用いてわかりやすい指導に努める。	B	北海道精神神経科診療所協会
		R4	飲酒問題についてのパンフレットなどを用いてわかりやすい指導に努める。	B	
		R5	飲酒問題についてのパンフレットなどを用いてわかりやすい指導に努める。		
		R6			
		R7			
		R3	本会ホームページにおいて健康づくりのお手伝いページにアルコールを含め健康に関する情報を掲載している。	B	北海道薬剤師会
		R4	本会ホームページにおいて健康づくりのお手伝いページにアルコールを含め健康に関する情報を掲載している。	B	
		R5	本会ホームページにおいて健康づくりのお手伝いページにアルコールを含め健康に関する情報を掲載する。		
		R6			
		R7			
		R3	本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、道民への啓発活動に取り組んだ。	C	北海道臨床心理士会
		R4	・本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、道民への啓発活動に取り組んだ。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席 ・新年度より、医療保健領域委員会内に、新たにアディクション担当者を設置し、より専門的な活動を行った。 ・ZOOMにて依存症支援についての情報交流会を開催し、当会会員の依存症支援についての知識と技術の向上を図った。	B	
		R5	・本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、会員への情報提供に努める。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席		
		R6			
		R7			
		R3	ホームページの活用や会員向け機関誌等での情報発信が可能なため、随時対応（関係機関からの情報提供も掲載可能）	B	北海道精神保健福祉士協会
		R4	ホームページの活用や会員向け機関誌等での情報発信が可能なため、随時対応（関係機関からの情報提供も掲載可能）	B	
		R5	ホームページの活用や会員向け機関誌等での情報発信が可能なため、随時対応（関係機関からの情報提供も掲載可能）		
		R6			
		R7			
		R3	協会本部ホームページにて対応する。	B	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部
		R4	R3同様の活動を目標としていく。協会本部HPとそのリンク等で行った。	B	
		R5	R4同様の活動を目標としていく。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	・当センター作成の「依存症相談窓口・依存症専門医療機関周知チラシ」及び各種リーフレット類の配架、当センターホームページ・SNS等においての情報発信を行い、普及啓発を図った。	B	札幌こころのセンター
		R4	・啓発週間でのポスター掲示や、チラシ・リーフレット等の配布、依存症に関する情報や取組を当センターホームページ・SNS等に掲載し、情報発信を行い、普及啓発を図った。	B	
		R5	・啓発週間でのポスター掲示や、チラシ・リーフレット等の配布、依存症に関する情報や取組を当センターホームページ・SNS等に掲載し、情報発信を行居、普及啓発を図る。		
		R6			
		R7			
		R3	HP、メールマガジンによる啓発を図った。	B	北海道産業保健総合支援センター
		R4	HP、メールマガジンによる啓発を図った。	B	
		R5	HP、メールマガジンによる啓発を行う。		
		R6			
		R7			
	・アルコール健康障害に関連して生ずる飲酒運転、暴力、虐待、自殺等の防止に資するため、飲酒が身体運動機能や認知機能に及ぼす影響や、飲酒の結果、理性の働きが抑えられること等の正しい知識の普及に取り組みます。	R3	啓発週間では、アルコール関連問題啓発週間ポスターを関係機関に配布し啓発を依頼、SNSでの掲載(北海道健康づくりTwitter)やイベントでの配布による周知。当課ホームページ(依存症対策支援機関アクセスマップ)掲載、関係機関への周知依頼、道庁1階のホール等を活用したポスターの掲示、リーフレット等設置(10/15～10/17)による普及啓発を実施した。 道ホームページ広報資料(10月号)にAUDIT、相談窓口を掲載。依存症Web講演会(10/19オンライン開催)、普及啓発セミナー(11/27オンライン開催)を企画実施した。 大学生に向けた啓発用の依存症リーフレットを作成し、大学学生相談室あて送付し相談での活用を依頼した。	B	保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課
		R4	啓発資料やホームページ等を活用し普及啓発を行った。アルコール健康障害・依存症予防啓発ポスターの配布(道医師会の7月医報同封により8,500部送付)した。オンライン道民健康セミナーを開催(8/6午後オンライン開催・8/8～8/22オンデマンド配信)した(当日視聴26人・オンデマンド配信視聴101人)。プログラム:アルコール摂取と健康への影響(北海道大学病院消化器内科 中井医師)、お酒のことで困ったら(手稲溪仁会病院精神保健科 白坂医師)	B	
		R5	啓発資料やホームページ等を活用し普及啓発を行うほか、道民を対象とした普及啓発セミナーを企画する。		
		R6			
		R7			
		R3	ホームページ等により飲酒による影響等について普及啓発を行った。	B	道立保健所
		R4	ホームページ等により飲酒による影響等について普及啓発を行った。	B	
		R5	ホームページ等により飲酒による影響等について普及啓発を行う。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	市町村や地域包括支援センター等が、リーフレット類の媒体を活用するなどした啓発活動の展開について検討。	B	保健福祉部高齢者支援局高齢者 保健福祉課
		R4	市町村や地域包括支援センター等職員が正しい知識が得られるよう。オンライン道民健康セミナー（8/6）の開催について周知した。	B	
		R5	市町村や地域包括支援センター等が、リーフレット類の媒体を活用するなどした啓発活動の展開について検討。		
		R6			
		R7			
		R3	小・中・高等学校の学習指導要領（体育・保健体育）を基に体育・保健体育・保健授業で児童・生徒に指導した。	B	北海道教育委員会
		R4	小・中・高等学校の学習指導要領（体育・保健体育）を基に体育・保健体育・保健授業で児童・生徒に指導した。	B	
		R5	小・中・高等学校の学習指導要領（体育・保健体育）を基に体育・保健体育・保健授業で児童・生徒に指導する。		
		R6			
		R7			
		R3	—		北海道医師会
		R4	—		
		R5	依頼に基づき、協力を検討いたします。		
		R6			
		R7			
		R3	—		北海道精神科病院協会
		R4	公的機関等の依頼に応じ、予防活動の支援を検討	C	
		R5	公的機関等の依頼に応じ、予防活動の支援を検討		
		R6			
		R7			
		R3	テキストやパンフレットを用いて理解しやすい指導に努める。	B	北海道精神神経科診療所協会
		R4	テキストやパンフレットを用いて理解しやすい指導に努める。	B	
		R5	テキストやパンフレットを用いて理解しやすい指導に努める。		
		R6			
		R7			
		R3	第5回薬物乱用防止キャンペーンin北海道において、アルコールの注意点について啓発した。	B	北海道薬剤師会
		R4	第6回薬物乱用防止キャンペーンin北海道において、アルコールの注意点についての啓発した。	B	
		R5	第7回薬物乱用防止キャンペーンin北海道において、アルコールの注意点についての啓発方法を検討する予定である。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、道民への啓発活動に取り組んだ。	C	北海道臨床心理士会
		R4	・本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、道民への啓発活動に取り組んだ。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席 ・新年度より、医療保健領域委員会内に、新たにアディクション担当者を設置し、より専門的な活動を行った。 ・ZOOMにて依存症支援についての情報交流会を開催し、当会会員の依存症支援についての知識と技術の向上を図った。	B	
		R5	・本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、会員への情報提供に努める。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席		
		R6			
		R7			
		R3	会員が所属機関にて相談支援業務の中で実践するとともに依頼があった際には講演・講義などで周知していく。特に飲酒運転防止に関しては飲酒運転防止インストラクターとして活動している会員が担当する。感染状況により講演等は縮小しているが相談等の必要に応じて情報提供・助言を行い、オンラインでの研修会にも参加している。	B	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部
		R4	R3同様の活動を目標としていく。北海道交通安全推進委員会主催の「飲酒運転根絶の日」決起大会で会員が基調講演を行い、そのイベントについて会員間で情報共有した。	B	
		R5	R4と同様の活動を目指す。		
		R6			
		R7			
		R3	・家族を対象とした「家族セミナー」を開催し、専門医療機関の医師による講話・自助グループの紹介・体験談発表・自助グループメンバーによる相談会などを実施した。 ・当センター作成の「依存症相談窓口・依存症専門医療機関周知チラシ」及び各種リーフレット類の配架、当センターホームページ・SNS等においての情報発信を行い、普及啓発を図った。 ・地域における生活を支援する機関の職員を対象に、高齢者と依存症問題をテーマにした研修会及び事例検討会を依存症治療拠点機関へ委託して開催した。	B	札幌こころのセンター
		R4	・「家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行った。（第1回8/3(3名参加)、第2回1/18(6名参加)開催。第3回3/10開催予定。） ・啓発週間でのポスター掲示や、チラシ・リーフレット等の配布、依存症に関する情報や取組を当センターホームページ・SNS等に掲載し、情報発信を行い、普及啓発を図った。	B	
		R5	・「家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行う。 ・啓発週間でのポスター掲示や、チラシ・リーフレット等の配布、依存症に関する情報や取組を当センターホームページ・SNS等に掲載し、情報発信を行う。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	事業主、産業保健スタッフ向けセミナー（9/30）、産業医研修会（10/28）を開催した。	B	北海道産業保健総合支援センター
		R4	事業主、産業保健スタッフ向けセミナー開催、産業医研修会の開催はできなかった。	C	
		R5	事業主、産業保健スタッフ向けセミナー開催、産業医研修会の開催をする。		
		R6			
		R7			
		R3	アルコール健康障害に関連する問題について、医学部における精神医学の講義や臨床実習において取り上げ、正しい知識の普及をはかった。	B	札幌医科大学医学部神経精神医学講座
		R4	アルコール健康障害に関連する問題について、医学部における精神医学の講義や臨床実習において取り上げ、正しい知識の普及をはかった。	B	
		R5	アルコール健康障害に関連する問題について、医学部における精神医学の講義や臨床実習において取り上げ、正しい知識の普及をはかる。		
		R6			
		R7			
		R3	講演会やセミナーなどを実施	B	北海道断酒連合会
		R4	講演会やセミナーなどを実施	B	
		R5	講演会やセミナーなどを実施（予定）		
		R6			
		R7			
		R3	経験談を交えて、飲酒が引き起こす人間の変容と依存症の症状としての暴力や虐待の出現を伝えた。	B	札幌マック
		R4	経験談を交えて、飲酒が引き起こす人間の変容と依存症の症状としての暴力や虐待の出現を伝えた。	B	
		R5	経験談を交えて、飲酒が引き起こす人間の変容と依存症の症状としての暴力や虐待の出現を伝える。		
		R6			
		R7			
		R3	経験談を交えて、飲酒が引き起こす人間の変容と依存症の症状としての暴力や虐待の出現を伝えた。	B	札幌マック女性共同作業所
		R4	経験談を交えて、飲酒が引き起こす人間の変容と依存症の症状としての暴力や虐待の出現を伝えた。しかし事業所の都合により7月より活動を一時休止としたため、伝える機会が減った。	D	
		R5	経験談を交えて、飲酒が引き起こす人間の変容と依存症の症状としての暴力や虐待の出現を伝える。		
		R6			
		R7			

様式1 第2期北海道アルコール健康障害対策推進計画に係る取組状況一覧

<評価欄の見方>
A：取組は概ね達成（実施）した（取組としては終了）。
B：取組は概ね達成（実施）した（引き続き取り組む必要がある）。
C：取組は一定程度進んでいる。
D：取組はあまり進んでいない。

発生予防（一次予防）
(2) 不適切な飲酒の誘引の防止

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
○20歳未満の 者への販売禁 止、酒類提供禁 止の周知徹底	・風俗営業管理者等に対 し、管理者講習等を通じて 20歳未満の者への酒類提供 の禁止の周知を徹底しま す。	R3	風俗営業等管理者等に対し、管理者講習等を通じて20歳未満の者への酒類提供の禁止の周知を徹底した。	B	北海道警察本部生活安全部保安 課
		R4	風俗営業管理者等に対し、管理者講習等を通じて20歳未満の者への酒類提供の禁止の周知を徹底した（管理者講習：年間36回、計300人程度）。	B	
		R5	風俗営業管理者等に対し、管理者講習等を通じて20歳未満の者への酒類提供の禁止の周知を徹底する。		
		R6			
		R7			
	・風俗営業を営む者による 営業所での20歳未満の者へ の酒類販売・供与につい て、指導・取締りを強化し ます。	R3	風俗営業を営む者による営業所での20歳未満の者への酒類提供・供与について指導・取締りを強化した。	B	北海道警察本部生活安全部保安 課
		R4	風俗営業を営む者による営業所での20歳未満への酒類提供・供与について指導・取締りを強化する。	B	
		R5	風俗営業管理者等に対し、管理者講習等を通じて20歳未満の者への酒類提供の禁止の周知を徹底する。		
		R6			
		R7			
	・酒類を飲用等した少年の 補導の強化とその後の指導 等を行います。	R3	補導した少年とその保護者に対する指導を実施した。	B	北海道警察本部生活安全部少年 課
		R4	飲酒をした20歳未満の者1,299人を補導し、その保護者に対する指導を実施した。	B	
		R5	北海道警察少年警察活動規程に基づく街頭補導活動を実施する。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組	年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
・20歳未満の者及びその家族へ不適切な飲酒を誘引しない啓発活動として、市町村及び酒類関係事業者等と連携し「未成年者飲酒防止・飲酒運転撲滅キャンペーン」を実施します。	R3	学校の非行防止教室で20歳未満の者の飲酒に係る注意喚起を実施した。	B	北海道警察本部生活安全部少年課
	R4	関係機関・団体と合同で「20歳未満飲酒防止・飲酒運転撲滅キャンペーン」を実施したほか、児童生徒を対象とする非行防止教室において20歳未満の飲酒に係る注意喚起を実施した。	B	
	R5	街頭啓発や学校の非行防止教室で20歳未満の飲酒に係る注意喚起を実施する。		
	R6			
	R7			
	R3	未成年の飲酒を単なる非行にとらえず、潜在する家庭の問題等の危機的な状態の発露と考え、介入の糸口としたいがコロナウィルスの影響により今年度の具体的な活動は未定である。各会員が所属する機関で必要に応じて支援と情報提供等を行った。	B	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部
	R4	R3と同様の活動を目指していく。北海道交通安全推進委員会主催の「飲酒運転根絶の日」決起大会で会員が基調講演を行い、そのイベントについて会員間で情報共有した。	B	
	R5	R4と同様の活動を目指す。		
	R6			
	R7			
	R3	「20歳未満飲酒防止・飲酒運転撲滅キャンペーン」は全道30組合で実施予定も「新型コロナウイルス」のため旭川組合以外は中止した（全道30組合で実施を予定していたが、新型コロナウイルスのため1組合の実施になった）。また旭川組合では定時制の生徒等を対象に「20歳未満飲酒防止教室」を開催し注意喚起を行った。その他民法改正に伴いポスター2万枚を作製し組合員店舗等での掲示を要請した。	D	北海道小売酒販組合連合会
	R4	「20歳未満飲酒防止・飲酒運転撲滅キャンペーン」は新型コロナウイルス感染症拡大防止を勘案しつつ規模を縮小し令和4年8月～10月に当会+14組合で街頭キャンペーンを実施した（参加人員217名）。また、旭川組合では昨年に続き中学生（82名）を対象に「20歳未満飲酒防止教室」を開催し注意喚起を行った。	C	
	R5	「20歳未満飲酒防止・飲酒運転撲滅キャンペーン」については新型コロナウイルス感染状況を勘案しつつ全道30組合で実施したいと考えている。		
	R6			
	R7			

様式1 第2期北海道アルコール健康障害対策推進計画に係る取組状況一覧

<評価欄の見方>
A：取組は概ね達成（実施）した（取組としては終了）。
B：取組は概ね達成（実施）した（引き続き取り組む必要がある）。
C：取組は一定程度進んでいる。
D：取組はあまり進んでいない。

進行予防（二次予防）
（1）健康診断及び保健指導

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
○健康診断や 保健指導等を 機会とした早 期介入・早期 治療	・健康診断や保健指導等に おいては、医療保険者及び 産業医等と連携し、「標準 的な健診・保健指導プログ ラム【平成30年度版】に定 められたアルコール使用障 害スクリーニング (AUDIT)を実施し、アル コール依存症が疑われる者 には、アルコール依存症の 治療を行う医療機関への受 診につなげる必要性がある ことを健康診断や保健指導 に従事する者に周知しま す。	R3	特定健診保健指導従事者に対する研修会での適正飲酒の情報提供	B	保健福祉部健康安全局地域保健課
		R4	特定健診保健指導従事者に対する研修会での適正飲酒の情報提供	B	
		R5	特定健診保健指導従事者に対する研修会での適正飲酒の情報提供		
		R6			
		R7			
		R3	産業医研修会（10/28）で周知を図った。	B	北海道産業保健総合支援センター
		R4	産業医研修会を通じ周知を図るほか、地域産業保健センターの登録産業医、保健師に周知を図った。	B	
	・市町村及び依存症専門医 療機関と連携し、市町村保 健師や地域包括支援セン ターによる高齢者支援にお ける早期介入・早期治療に つなげられるよう連携体制 の構築を図ります。	R5	産業医研修会を通じ周知を図るほか、地域産業保健センターの登録産業医、保健師に周知を図る。		
		R6			
		R7			
		R3	連携体制の構築を図っていく際に、地域包括支援センターの参画を促進できるよう情報提供等を実施。	B	保健福祉部高齢者支援局課高齢者保健福祉課
		R4	コロナ禍という状況もあり、依存症専門医療機関と連携し、地域包括支援センター等の参画を促進できるよう情報提供の実施はあまり進んでいない。	D	
		R5	連携体制の構築を図っていく際に、地域包括支援センターの参画を促進できるよう情報提供等を実施。		
		R6			
		R7			
		R3	関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。		北海道医師会
		R4	関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。		
		R5	依頼に基づき、協力を検討いたします。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	コロナ禍において、連続飲酒に陥る人、身体・認知機能の低下を来している人について特に留意し、自助グループや多機関と連携して診ていく。	B	北海道精神神経科診療所協会
		R4	コロナ禍において、連続飲酒に陥る人、身体・認知機能の低下を来している人について特に留意し、自助グループや多機関と連携して診ていく。	B	
		R5	連続飲酒に陥る人、身体・認知機能の低下を来している人について留意し、自助グループや多機関と連携して診ていく。		
		R6			
		R7			
		R3	会員は高齢者を対象に含む相談支援業務に従事しており、関係機関と緊密な連携を図ることで潜在する飲酒関連問題に積極的に関与する。会員が所属する機関に高齢アルコール関連問題者の受診・入院等の相談・依頼が多発しており、適宜必要な支援や連携を行った。	B	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部
		R4	R3と同様の活動を目指とする。コロナ禍により受診・入院に制限が多くなり、相談件数も例年を下回った。	C	
		R5	コロナウィルスの感染減少に伴い、相談件数の増加が予想されるため、柔軟な対応と状況把握のため、緊密な連携を図る。		
		R6			
		R7			
		R3	地域における生活を支援する機関の職員を対象に、高齢者と依存症問題をテーマにした研修会及び事例検討会を依存症治療拠点機関へ委託して開催した。	B	札幌こころのセンター
		R4	・依存症相談窓口等において、高齢者を支援する機関より相談があった際には、必要時専門医療機関及び自助グループにつなぐ等、支援を行う。 ・地域における生活を支援する機関の職員を対象に、高齢者と依存症問題をテーマにした研修会及び事例検討会を依存症治療拠点機関へ委託して開催した。（第1回10/28、第2回12/9開催。第3回2/17開催予定。）	B	
		R5	依存症相談窓口等において、高齢者を支援する機関より相談があった際には、必要時専門医療機関及び自助グループにつなぐ等、支援を行う。		
		R6			
		R7			
		R3	札幌市で地域包括支援センターへの講義と、連携した事例検討会を実施した。	B	依存症治療拠点機関
		R4	札幌市で地域包括支援センターへの講義を行った。事例検討会を2回実施（1回目18名参加）	B	
		R5	札幌市の地域包括支援センターと連携し事例検討会の定例化などの工夫を行う。		
		R6			
		R7			
		R3	専門医療機関における作業療法介入の他、会員作業療法士への啓発を通して地域連携の準備性を高める。	B	北海道作業療法士会
		R4	専門医療機関における作業療法介入の他、会員作業療法士への啓発を通して地域連携の準備性を高める。（継続）	B	
		R5	専門医療機関における作業療法介入の他、会員作業療法士への啓発を通して地域連携の準備性を高める。（継続）		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	精神保健福祉専門職を対象にアルコール等の依存症に関するWEB研修を3～4回実施した。	B	北海道アルコール保健医療と地域ネットワーク研究会
		R4	R3同様に拠点病院と連携してZoom中心に年3～4回セミナーを実施。将来的には全国学会による他地域との連携をするため道内のアルコール関連問題についてのネットワークを強化する活動をしていきたい。 北海道ネット主催研修として、依存症やひきこもりなどに対する基本的な面接技法である動機づけ面接セミナーを開催（参加者約50名）、共催でのZOOMセミナーを3回（8/5、11/4、3/24（予定））、北海道オンライン道民健康セミナーへの後援。 また、アルコール健康障害対策基本法を推進することを目的とした民間組織であるアル法ネットに幹事団体として参画し、依存症対策の普及啓発に寄与した。	B	
		R5	前年度と同様に年数回、専門職向けのセミナーを開催する予定		
		R6			
		R7			
		R3	特定健診保健指導従事者に対する研修会での適正飲酒の情報提供	B	
		R4	特定健診保健指導従事者に対する研修会での適正飲酒の情報提供	B	
		R5	特定健診保健指導従事者に対する研修会での適正飲酒の情報提供		
		R6			
		R7			
○早期介入で できる人材の育 成と支援機関 の連携	・健康診断や保健指導に従事する者が、問題飲酒はあるがアルコール依存症までには至っていないと判断された者に対し、適切な減酒支援等を実施できるよう、国の研究成果を踏まえ、研修会を通じて人材育成を行います。	R3	相談援助技術研修依存症研修を開催し、アルコール依存症についての知識を深め支援できる人材を育成。 令和3年10月15日 令和3年度（2021年度）相談援助技術研修「依存症研修」 96名参加	B	保健福祉部健康安全局地域保健課
		R4	相談援助技術研修依存症研修を開催し、アルコール依存症についての知識を深め支援できる人材育成を図った。 令和4年度（2022年度）相談援助技術研修「依存症研修」を実施した。（開催日：令和4年10月20～21日、参加者：20日 49名、21日 48名） 教育研修（e-ラーニング事業）を新規事業として実施した。基礎疾患の理解（依存症）として、9月5日～30日、1月10日～2月3日まで2回配信した。	B	
		R5	相談援助技術研修依存症研修を開催し、アルコール依存症についての知識を深め支援できる人材を育成する。		
		R6			
		R7			
		R3	普及啓発から回復支援まで広範囲に課題を設定して研修会などを行っているが今年度はコロナウィルスの影響により未定である。北海道支部として目立った活動は行えなかったが協会本部と緊密な連絡を取っているほか、本部で行われる研修に参加している。	C	北海道立精神保健福祉センター
		R4	R3と同様 コロナ禍に加えて組織内部の課題により対外的なものは実施せず会員内部の情報共有とどまった。	C	
		R5	オンラインやハイブリッドの開催を視野に入れて協会本部と連携を図り企画・開催を目指す。		
		R6			
		R7			
		R3	普及啓発から回復支援まで広範囲に課題を設定して研修会などを行っているが今年度はコロナウィルスの影響により未定である。北海道支部として目立った活動は行えなかったが協会本部と緊密な連絡を取っているほか、本部で行われる研修に参加している。	C	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部
		R4	R3と同様 コロナ禍に加えて組織内部の課題により対外的なものは実施せず会員内部の情報共有とどまった。	C	
		R5	オンラインやハイブリッドの開催を視野に入れて協会本部と連携を図り企画・開催を目指す。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	地域における生活を支援する機関の職員を対象に、高齢者と依存症問題をテーマにした研修会及び事例検討会を依存症治療拠点機関へ委託して開催した。	B	札幌こころのセンター
		R4	地域における生活を支援する機関の職員を対象に、依存症患者等の支援を担う人材養成のための研修を、依存症治療拠点機関へ委託して開催した。（第1回10/28、第2回12/9開催。第3回2/17開催予定。）	B	
		R5	地域における生活を支援する機関の職員を対象に、依存症患者等の支援を担う人材養成のための研修を、依存症治療拠点機関へ委託して開催する。		
		R6			
		R7			
	・アルコール依存症をはじめアルコール健康障害が疑われる者に対して、減酒や断酒に向けた支援を行うため、精神保健福祉センターや保健所、専門医療機関、自助グループ等の連携づくりを進めます。	R3	北海道立精神保健福祉センター依存症対策連携会議を開催し、関係機関と連携を図った。 令和3年10月26日 令和3年度（2021年度）北海道立精神保健福祉センター依存症対策連携会議	B	北海道立精神保健福祉センター
		R4	北海道依存症対策連携会議を開催し、関係機関と連携を図った。 令和4年度（2022年度）北海道依存症対策連携会議を開催した。（開催日：令和4年10月25日）	B	
		R5	北海道依存症対策連携会議を開催し、関係機関と連携を図る。		
		R6			
		R7			
		R3	「札幌市依存症対策総合支援連携会議」を開催し、医療機関、相談機関、地域で支援を行う機関・団体・グループとの情報交換・連携を図った。	B	札幌こころのセンター
		R4	「札幌市依存症対策地域支援連携会議」を開催し、専門医療機関、相談機関、地域で支援を行う機関・団体・自助グループ等と意見交換を行い、連携を図った。（10/25WEB開催。※R4.8.22要綱改正を行い、会議名称を「札幌市依存症対策地域支援連携会議」に変更した。）	B	
		R5	「札幌市依存症対策地域支援連携会議」を開催し、専門医療機関、相談機関、地域で支援を行う機関・団体・自助グループ等と意見交換を行い、連携を図る。		
		R6			
		R7			
		R3	精神保健福祉センターでの依存症研修での講義と報告を行った。	B	依存症治療拠点機関
		R4	精神保健福祉センターでの依存症研修での講義を行った。	B	
		R5	精神保健福祉センターでの依存症研修で講義を行う。		
		R6			
		R7			
		R3	各地域において例会を実施	B	北海道断酒連合会
		R4	例会や研修会などを実施	B	
		R5	各地域において例会や研修会などを実施（予定）		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	減酒や節酒に対しての支援は行わなかった。しかし、アルコール依存症と診断されていない人の相談も行った。	B	札幌マック
		R4	減酒や節酒に対しての支援は行わない（アルコール依存症と診断されていない人）が、相談は受け、情報提供は行った。	B	
		R5	減酒や節酒に対しての支援は行わない（アルコール依存症と診断されていない人）が、相談は受け、情報提供は行う。		
		R6			
		R7			
		R3	減酒や節酒に対しての支援は行わなかった。しかし、アルコール依存症と診断されていない人の相談も行った。	B	札幌マック女性共同作業所
		R4	減酒や節酒に対しての支援は行わない（アルコール依存症と診断されていない人）が、相談は受け、情報提供は行った。が、事業所の都合により7月より活動を一時休止としたことから、7月以降は機会が減った。	D	
		R5	減酒や節酒に対しての支援は行わない（アルコール依存症と診断されていない人）が、相談は受け、情報提供は行う。		
		R6			
		R7			
○職域における対応の促進	・アルコール健康障害に関する産業保健スタッフ等への研修や人事労務担当者等を対象とした事業者向けセミナーの充実を図ります。	R3	事業主、産業保健スタッフ等向けセミナーを開催した。（9/30）	B	北海道産業保健総合支援センター
		R4	事業主、産業保健スタッフ等向けセミナーの開催はできなかった。	C	
		R5	事業主、産業保健スタッフ等向けセミナーを開催する。		
		R6			
		R7			

様式1 第2期北海道アルコール健康障害対策推進計画に係る取組状況一覧

<評価欄の見方>
A：取組は概ね達成（実施）した（取組としては終了）。
B：取組は概ね達成（実施）した（引き続き取り組む必要がある）。
C：取組は一定程度進んでいる。
D：取組はあまり進んでいない。

進行予防（二次予防）
（2）医療の充実等

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
○専門医療機 関及び治療拠 点機関の整備	・道が定めた選定基準によ るアルコール健康障害の治 療及び医療連携の拠点とな る専門医療機関及び治療拠 点機関の質の向上に向けて 取組を進めます。	R3	オンライン勉強会の情報の共有、院内勉強会等を通し、スキルアップを目指す。	B	北海道精神神経科診療所協会
		R4	オンライン等の勉強会の情報の共有、院内勉強会等を通し、スキルアップを目指す。	B	
		R5	オンライン等の勉強会の情報の共有、院内勉強会等を通し、スキルアップを目指す。		
		R6			
		R7			
		R3	会員は各自、所属機関における実践を通じて専門性の向上を図るとともに、当会主催の物に限らず、積極的に研修に参加する。コロ ナウィルス感染状況が思わしくない中で、オンライン開催を中心に積極的に研修に参加した。	B	日本アルコール関連問題ソー シャルワーカー協会北海道支部
		R4	R3と同様の活動を目標とする。オンライン・ハイブリッドの研修が増えてきて参加機会が増えた。	B	
		R5	感染状況を配慮しながら研修の参加や連携体制の向上に努める。		
		R6			
		R7			
		R3	「札幌市依存症対策総合支援連携会議」等において、専門医療機関間の情報交換や連携を図った。	B	札幌こころのセンター
		R4	「札幌市依存症対策地域支援連携会議」等において、専門医療機関間の情報交換や連携を図った。（10/25WEB開催。※R4.8.22要綱 改正を行い、会議名称を「札幌市依存症対策地域支援連携会議」に変更した。）	B	
		R5	「札幌市依存症対策地域支援連携会議」等において、専門医療機関間の情報交換や連携を図る。		
		R6			
		R7			
		R3	専門医療機関会議を実施し情報共有するとともに、依存症支援者研修で専門医療機関枠を設け、取り組みを共有した。	B	依存症治療拠点機関
		R4	専門医療機関会議を2回実施して情報共有を行うと共に、アンケートを実施し、現状把握を行った。	B	
		R5	専門医療機関会議の継続と、R4年度のアンケートをもとに、連携強化に向けた取り組みを行う。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
○アルコール健康障害に係る医療の質の向上	・アルコール依存症が疑われる者を適切な治療に結びつけるため、内科等のかかりつけ医や産業医等に対して、早期介入の手法を含むアルコール依存症等の研修を実施します。	R3	かかりつけ医等うつ病対応力向上研修を開催し、内科等のかかりつけ医がアルコール健康障害についての理解を深める機会とした。 令和3年9月25日 42名参加	B	北海道立精神保健福祉センター
		R4	かかりつけ医等うつ病対応力向上研修を開催し、内科等のかかりつけ医がアルコール健康障害についての理解を深める機会とした。 (開催日：令和4年8月27日、参加者：87名)	B	
		R5	かかりつけ医等うつ病対応力向上研修を開催し、内科等のかかりつけ医がアルコール健康障害についての理解を深める機会とする。		
		R6			
		R7			
		R3	関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。		北海道医師会
		R4	かかりつけ医等うつ病対応力向上研修のプログラムの中で「アルコール関連問題とうつ、自殺」「かかりつけ医でつながるアルコール依存症治療」について講演を行った。	B	
		R5	依頼に基づき、協力を検討いたします。		
		R6			
		R7			
		R3	オンライン勉強会の情報の共有、院内勉強会等を通し、スキルアップを目指す。	B	北海道精神神経科診療所協会
		R4	オンライン勉強会の情報の共有、院内勉強会等を通し、スキルアップを目指す。	B	
		R5	オンライン勉強会の情報の共有、院内勉強会等を通し、スキルアップを目指す。		
		R6			
		R7			
		R3	依存症の支援に必要な人材を養成する国の研修について、医療機関への周知に協力した。	B	札幌こころのセンター
		R4	依存症の支援に必要な人材を養成する国の研修について、医療機関への周知に協力した。	B	
		R5	依存症の支援に必要な人材を養成する国の研修について、医療機関への周知に協力する。		
		R6			
		R7			
		R3	啓発研修で、症例をととして内科との連携について報告、ディスカッションを行った。	B	依存症治療拠点機関
		R4	内科医とつながりをもち、啓発研修でのディスカッションを行った(1回)。	B	
		R5	内科医を交えての啓発研修の継続と、産業医に向けた研修を検討する。		
		R6			
		R7			
		R3	産業医研修会を開催した。(10/28)	B	北海道産業保健総合支援センター
		R4	産業医研修会の開催はできなかった。	C	
		R5	産業医研修会を開催する。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	精神保健福祉専門職を対象にアルコール等の依存症に関するWEB研修を3～4回実施した。	B	北海道アルコール保健医療と地域ネットワーク研究会
		R4	R3同様に拠点病院と連携してZoom中心に年3～4回セミナーを実施。将来的には全国学会による他地域との連携をするため道内のアルコール関連問題についてのネットワークを強化する活動をしていきたい。 北海道ネット主催研修として、依存症やひきこもりなどに対する基本的な面接技法である動機づけ面接セミナーを開催（参加者約50名）、共催でのZOOMセミナーを3回（8/5、11/4、3/24（予定））、北海道オンライン道民健康セミナーへの後援。 また、アルコール健康障害対策基本法を推進することを目的とした民間組織であるアル法ネットに幹事団体として参画し、依存症対策の普及啓発に寄与した。	B	
		R5	前年度と同様に年数回、専門職向けのセミナーを開催する予定		
		R6			
		R7			
	・内科、産婦人科をはじめとする関係診療科の医療従事者に対し、依存症、生活習慣病、女性の飲酒の影響等、アルコール健康障害に関する知識、家族への支援や自助グループ等との連携の重要性について周知を図ります。	R3	アルコール依存・健康障害予防ポスターを関係診療科等へ配布し普及啓発した（ポスター作成元(大塚製薬株式会社)から送付：内科（肝疾患診療）98か所、精神科198か所、調剤薬局2,350か所） 評価Cの理由：産婦人科への配布はしていないため。	C	保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課
		R4	アルコール健康障害予防啓発ポスターの配布（道医師会の7月医報同封により8,500部送付）	B	
		R5	アルコール関連問題啓発週間の機会などに、関係医療機関に対し普及啓発を行うことについて検討する。		
		R6			
		R7			
		R3	啓発研修で、内科ととの連携について報告、ディスカッションを行ったが、実態調査は行えなかった。	C	依存症治療拠点機関
		R4	内科医をはじめとした身体科と連携をとる中で、アルコール健康障害に対するす級啓発を行った。内科医を交えての啓発研修を行った。	B	
		R5	内科医を交えての啓発研修の継続と、普及啓発に向けた取り組みを検討する。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
・アルコール健康障害に係る治療やリハビリテーション、相談に関わる作業療法士やソーシャルワーカー、心理職などの医療従事者の人材育成を図ります。	R3	関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。			北海道医師会
	R4	関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。			
	R5	依頼に基づき、協力を検討いたします。			
	R6				
	R7				
	R3	医療保健領域における本会会員の活動を調査し、医療保健現場において効果的な集団精神療法等を行えるようにする。またアルコール依存症をはじめとする様々な依存症は、対人コミュニケーションの困難さを抱えているとともに、何らかのトラウマと関連していることもあり、こうした対人コミュニケーションの改善ならびに心的外傷へのアプローチを行う。		D	北海道臨床心理士会
	R4	・医療保健領域における本会会員の活動を調査し、医療保健現場において効果的な集団精神療法等を行えるようにする。またアルコール依存症をはじめとする様々な依存症は、対人コミュニケーションの困難さを抱えているとともに、何らかのトラウマと関連していることもあり、こうした対人コミュニケーションの改善ならびに心的外傷へのアプローチを行った。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席をし、本会会員への情報共有を図った。 ・ZOOMにて依存症支援についての情報交流会を開催し、当会会員の依存症支援についての知識と技術の向上を図った。 ・新年度より、医療保健領域委員会内に、新たにアディクション担当者を設置し、より専門的な研修や啓発活動を行った。		B	
	R5	・本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、会員への情報提供に努める。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席 ・医療保健領域における本会会員の活動を調査し、医療保健現場において効果的な集団精神療法等を行えるようにする。☒			
	R6				
	R7				
	R3	研修の機会を提供（研修情報の提供を含む）		B	
	R4	研修の機会を提供（研修情報の提供を含む）		B	
	R5	研修の機会を提供（研修情報の提供を含む）			北海道精神保健福祉士協会
	R6				
	R7				
	R3	精神科病院と救急病院の地域連携部門、相談部門の連携強化と課題共有の場の設定		C	北海道医療ソーシャルワーカー協会
	R4	精神科病院と救急病院の地域連携部門、相談部門の連携強化と課題共有の場の設定		C	
	R5	精神科病院と救急病院の地域連携部門、相談部門の連携強化と課題共有の場の設定			
	R6				
	R7				

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	ソーシャルワーカーに対象を限定せず、職種不問で多職種間の相互理解や情報共有などを目指し、その交流を通じて人材の育成を図っていくが、コロナウィルスの影響により今年度の開催は未定である。コロナウィルス感染の影響で多職種や会員以外への働きかけは困難であったが、会員間の相互研鑽に努めた。	C	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部
		R4	R3と同様の活動を目指す。コロナ禍でソーシャルワーク業務に大きな制約が課されることとなり、会員の疲弊が激しく、相互交流によってストレスの緩和やモチベーションの維持向上に努めた。	B	
		R5	アフターコロナの問題を見据えてソーシャルワーカーの課題を共有して対応力の向上に努める。		
		R6			
		R7			
		R3	・地域における生活を支援する機関の職員を対象に、高齢者と依存症問題をテーマにした研修会及び事例検討会を依存症治療拠点機関等へ委託して開催した。 ・依存症の支援に必要な人材を養成する国の研修について、医療機関への周知に協力した。	B	札幌こころのセンター
		R4	・地域における生活を支援する機関の職員を対象に、依存症患者等の支援を担う人材養成のための研修を、依存症治療拠点機関へ委託して開催した。（第1回10/28、第2回12/9開催。第3回2/17開催予定。） ・依存症の支援に必要な人材を養成する国の研修について、医療機関への周知に協力した。	B	
		R5	・地域における生活を支援する機関の職員を対象に、依存症患者等の支援を担う人材養成のための研修を、依存症治療拠点機関へ委託して開催する。 ・依存症の支援に必要な人材を養成する国の研修について、医療機関への周知に協力する。		
		R6			
		R7			
		R3	依存症支援者研修会の実施し周知を図ると共に、啓発研修会を実施した。	B	依存症治療拠点機関
		R4	依存症支援者研修会の周知を図った。啓発研修会を実施した。各職種の勉強会に協力した。	B	
		R5	依存症支援者研修会、啓発研修会の周知と内容の工夫を行うと共に、各職種の勉強会などへの協力を継続する。		
		R6			
		R7			
		R3	養成施設における基礎教育での教育・啓発、および会員作業療法士への研修機会を通して人材育成をはかる。	B	北海道作業療法士会
		R4	養成施設における基礎教育での教育・啓発、および会員作業療法士への研修機会を通して人材育成をはかる。（継続）	B	
		R5	養成施設における基礎教育での教育・啓発、および会員作業療法士への研修機会を通して人材育成をはかる。（継続）		
		R6			
		R7			
		R3	アルコール依存症を合併する種々の精神障害患者の治療を通して、多職種の人材育成に寄与した。	B	北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室
		R4	アルコール依存症を合併する種々の精神障害患者の治療を通して、多職種の人材育成に寄与した。	B	
		R5	アルコール依存症を合併する種々の精神障害患者の治療を通して、多職種の人材育成に寄与する。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	作業療法士やソーシャルワーカー、心理職等が参加する当講座での勉強会等において、アルコール健康障害に関する問題を取り上げた。	B	札幌医科大学医学部神経精神医学講座
		R4	作業療法士やソーシャルワーカー、心理職等が参加する当講座での勉強会等において、アルコール健康障害に関する問題を取り上げた。	B	
		R5	作業療法士やソーシャルワーカー、心理職等が参加する当講座でのカンファレンスや勉強会等において、アルコール健康障害に関する問題を取り上げる。		
		R6			
		R7			
		R3	精神保健福祉専門職を対象にアルコール等の依存症に関するWEB研修を3～4回実施した。	B	北海道アルコール保健医療と地域ネットワーク研究会
		R4	R3同様に拠点病院と連携してZoom中心に年3～4回セミナーを実施。将来的には全国学会による他地域との連携をするため道内のアルコール関連問題についてのネットワークを強化する活動をしていきたい。 北海道ネット主催研修として、依存症やひきこもりなどに対する基本的な面接技法である動機づけ面接セミナーを開催（参加者約50名）、共催でのZOOMセミナーを3回（8/5、11/4、3/24（予定））、北海道オンライン道民健康セミナーへの後援。 また、アルコール健康障害対策基本法を推進することを目的とした民間組織であるアル法ネットに幹事団体として参画し、依存症対策の普及啓発に寄与した。	B	
		R5	前年度と同様に年数回、専門職向けのセミナーを開催する予定		
		R6			
		R7			
○医療連携の 推進	・専門医療機関及び治療拠点機関を中心に、内科等のかかりつけ医や産業医、アルコール健康障害の治療を実施していない精神科医療機関、民間団体等の関係機関との連携強化を図ります。	R3	かかりつけ医等うつ病対応力向上研修を開催し、内科等のかかりつけ医がアルコール健康障害についての理解を深める機会とし、連携強化を図った。令和3年9月25日42名参加	B	北海道立精神保健福祉センター
		R4	かかりつけ医等うつ病対応力向上研修を開催し、内科等のかかりつけ医がアルコール健康障害についての理解を深める機会とし、連携強化を図った。（開催日：令和4年8月27日、参加者：87名）	B	
		R5	かかりつけ医等うつ病対応力向上研修を開催し、内科等のかかりつけ医がアルコール健康障害についての理解を深める機会とし、連携強化を図る。		
		R6			
		R7			
		R3	関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。	B	北海道医師会
		R4	かかりつけ医等うつ病対応力向上研修のプログラムの中で「アルコール関連問題とうつ、自殺」「かかりつけ医でつながるアルコール依存症治療」について講演を行った。		
		R5	依頼に基づき、協力を検討いたします。		
		R6			
		R7			
		R3	—	C	北海道精神科病院協会
		R4	身体疾患の診療施設と連携し、早期発見・治療を実践する		
		R5	身体疾患の診療施設と連携し、早期発見・治療を実践する		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	ケア会議等を通して、地域連携、病診連携を続ける。	B	北海道精神神経科診療所協会
		R4	ケア会議等を通して、地域連携、病診連携を続ける。	B	
		R5	ケア会議等を通して、地域連携、病診連携を続ける。		
		R6			
		R7			
		R3	医療保健領域における本会会員の活動を調査し、医療保健現場において効果的な集団精神療法等を行えるようにする。またアルコール依存症をはじめとする様々な依存症は、対人コミュニケーションの困難さを抱えているとともに、何らかのトラウマと関連していることもあり、こうした対人コミュニケーションの改善ならびに心的外傷へのアプローチを行う。	D	北海道臨床心理士会
		R4	・医療保健領域における本会会員の活動を調査し、医療保健現場において効果的な集団精神療法等を行えるようにする。またアルコール依存症をはじめとする様々な依存症は、対人コミュニケーションの困難さを抱えているとともに、何らかのトラウマと関連していることもあり、こうした対人コミュニケーションの改善ならびに心的外傷へのアプローチを行った。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席をし、本会会員への情報共有を図った。 ・ZOOMにて依存症支援についての情報交流会を開催し、当会会員の依存症支援についての知識と技術の向上を図った。 ・新年度より、医療保健領域委員会内に、新たにアディクション担当者を設置し、より専門的な研修や啓発活動を行った。	B	
		R5	・本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、会員への情報提供に努める。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席 ・医療保健領域における本会会員の活動を調査し、医療保健現場において効果的な集団精神療法等を行えるようにする。☒		
		R6			
		R7			
		R3	随時対応	B	北海道精神保健福祉士協会
		R4	随時対応	B	
		R5	随時対応		
		R6			
		R7			
		R3	会員は専門医療機関を含めた医療機関や回復支援施設に所属しており、通常の業務において関係機関と緊密な連携を図る。	B	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部
		R4	R3と同様の活動を目標とする。各会員の所属機関で必要に応じて行ったがコロナ感染により縮小せざるを得ない状況にあった。	C	
		R5	感染縮小傾向に敏感に反応しながら関係機関との積極的な連携を図る。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	・地域における生活を支援する機関の職員を対象に、高齢者と依存症問題をテーマにした研修会及び事例検討会を依存症治療拠点機関等へ委託して開催した。 ・依存症の支援に必要な人材を養成する国の研修について、医療機関への周知に協力した。	B	札幌こころのセンター
		R4	・地域における生活を支援する機関の職員を対象に、依存症患者等の支援を担う人材養成のための研修を、依存症治療拠点機関へ委託して開催した。（第1回10/28、第2回12/9開催。第3回2/17開催予定。） ・依存症の支援に必要な人材を養成する国の研修について、医療機関への周知に協力した。 ・「札幌市依存症対策地域支援連携会議」を開催し、専門医療機関、相談機関、地域で支援を行う機関・団体・自助グループ等と意見交換を行い、連携を図った。（10/25WEB開催。※R4.8.22要綱改正を行い、会議名称を「札幌市依存症対策地域支援連携会議」に変更した。）	B	
		R5	・地域における生活を支援する機関の職員を対象に、依存症患者等の支援を担う人材養成のための研修を、依存症治療拠点機関へ委託して開催する。 ・依存症の支援に必要な人材を養成する国の研修について、医療機関への周知に協力する。 ・「札幌市依存症対策地域支援連携会議」を開催し、専門医療機関、相談機関、地域で支援を行う機関・団体・自助グループ等と意見交換を行い、連携を図る。		
		R6			
		R7			
		R3	内科医とつながりを持ち、啓発研修で内科医から報告をしていただきディスカッションを行った。	B	依存症治療拠点機関
		R4	内科医とつながりを持ち、啓発研修でのディスカッションを行った（1回）。	B	
		R5	内科医を交えての啓発研修の継続と、産業医に向けた研修を検討する。		
		R6			
		R7			
		R3	専門医療機関での作業療法介入のほか、身体科、介護保険領域、障害福祉サービス領域等の作業療法士へ研修機会を提供し、連携の準備性を高める。Cの理由：精神保健領域以外の差業療法士の研修機会を作れていない。	C	北海道作業療法士会
		R4	専門医療機関での作業療法介入のほか、一般精神医療機関等の作業療法士へ研修機会を検討し、当該機関との連携の準備性を高める。	B	
		R5	専門医療機関での作業療法介入のほか、一般精神医療機関等の作業療法士へ研修機会を検討し、当該機関との連携の準備性を高める。（継続）		
		R6			
		R7			
		R3	アルコール依存症患者の治療を通じて、専門治療機関との連携を強化した。	B	北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室
		R4	アルコール依存症患者の治療を通じて、専門治療機関との連携を強化した。	B	
		R5	アルコール依存症患者の治療を通じて、専門治療機関との連携を強化する。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	精神保健福祉専門職を対象にアルコール等の依存症に関するWEB研修を3～4回実施した。	B	北海道アルコール保健医療と地域ネットワーク研究会
		R4	R3同様に拠点病院と連携してZoom中心に年3～4回セミナーを実施。将来的には全国学会による他地域との連携をするため道内のアルコール関連問題についてのネットワークを強化する活動をしていきたい。 北海道ネット主催研修として、依存症やひきこもりなどに対する基本的な面接技法である動機づけ面接セミナーを開催（参加者約50名）、共催でのZOOMセミナーを3回（8/5、11/4、3/24（予定））、北海道オンライン道民健康セミナーへの後援。 また、アルコール健康障害対策基本法を推進することを目的とした民間組織であるアル法ネットに幹事団体として参画し、依存症対策の普及啓発に寄与した。	B	
		R5	前年度と同様に年数回、専門職向けのセミナーを開催する予定		
		R6			
		R7			
		R3	（新型コロナウイルス感染症対策の観点から当初の予定行事を開催見合わせ）	D	
		R4	研修会などの行事において専門医を招いて講演を実施	B	北海道断酒連合会
		R5	研修会などの行事において専門医を招いて講演を実施（予定）		
		R6			
		R7			
		R3	関係機関よりの問い合わせに際し、施設の概要を説明し、要請があれば面談等を実施し、受け入れの可否を回答した。	B	札幌マック
		R4	関係機関よりの問い合わせに際し、施設の概要を説明し、要請があれば面談等を実施し、受け入れの可否を回答した。	B	
		R5	関係機関よりの問い合わせに際し、施設の概要を説明し、要請があれば面談等を実施し、受け入れの可否を回答		
		R6			
		R7			
		R3	関係機関よりの問い合わせに際し、施設の概要を説明し、要請があれば面談等を実施し、受け入れの可否を回答した。	B	札幌マック女性共同作業所
		R4	関係機関よりの問い合わせに際し、施設の概要を説明し、要請があれば面談等を実施し、受け入れの可否を回答した。しかし、7月以降、事業所の都合により活動を一時休止としたことから機会が減少した。	D	
		R5	関係機関よりの問い合わせに際し、施設の概要を説明し、要請があれば面談等を実施し、受け入れの可否を回答。		
		R6			
		R7			
	・内科・救急等の一般医療、総合病院、専門医療機関、相談拠点、自助グループ等の関係機関の連携体制（SBIRTS）の構築を推進します。	R3	かかりつけ医等うつ病対応力向上研修を開催し、内科等のかかりつけ医がアルコール健康障害についての理解を深める機会とし、連携強化を図った。令和3年9月25日42名参加	B	北海道立精神保健福祉センター
		R4	かかりつけ医等うつ病対応力向上研修を開催し、内科等のかかりつけ医がアルコール健康障害についての理解を深める機会とし、連携強化を図った。（開催日：令和4年8月27日、参加者：87名）	B	
		R5	かかりつけ医等うつ病対応力向上研修を開催し、内科等のかかりつけ医がアルコール健康障害についての理解を深める機会とし、連携強化を図る。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度 令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3 関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。		北海道医師会
		R4 関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。		
		R5 依頼に基づき、協力を検討いたします。		
		R6		
		R7		
		R3 ー		北海道精神科病院協会
		R4 身体疾患の診療施設と連携し、早期発見・治療を実践する	C	
		R5 身体疾患の診療施設と連携し、早期発見・治療を実践する		
		R6		
		R7		
		R3 ケア会議等を通して、地域連携、病診連携を続ける。	B	北海道精神神経科診療所協会
		R4 ケア会議等を通して、地域連携、病診連携を続ける。	B	
		R5 ケア会議等を通して、地域連携、病診連携を続ける。		
		R6		
		R7		
		R3 医療保健領域における本会会員の活動を調査し、医療保健現場において効果的な集団精神療法等を行えるようにする。またアルコール依存症をはじめとする様々な依存症は、対人コミュニケーションの困難さを抱えているとともに、何らかのトラウマと関連していることもあり、こうした対人コミュニケーションの改善ならびに心的外傷へのアプローチを行う。	D	北海道臨床心理士会
		R4 ・医療保健領域における本会会員の活動を調査し、医療保健現場において効果的な集団精神療法等を行えるようにする。またアルコール依存症をはじめとする様々な依存症は、対人コミュニケーションの困難さを抱えているとともに、何らかのトラウマと関連していることもあり、こうした対人コミュニケーションの改善ならびに心的外傷へのアプローチを行った。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席をし、本会会員への情報共有を図った。 ・ZOOMにて依存症支援についての情報交流会を開催し、当会会員の依存症支援についての知識と技術の向上を図った。 ・新年度より、医療保健領域委員会内に、新たにアディクション担当者を設置し、より専門的な研修や啓発活動を行った。	B	
		R5 ・本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、会員への情報提供に努める。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席 ・医療保健領域における本会会員の活動を調査し、医療保健現場において効果的な集団精神療法等を行えるようにする。		
		R6		
		R7		
		R3 求めに応じて連携・協力	B	北海道精神保健福祉士協会
		R4 求めに応じて連携・協力	B	
		R5 求めに応じて連携・協力		
		R6		
		R7		

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	医療機関に所属する会員は内科等から紹介された患者の相談に応じて、適切な治療プログラムへの導入に努め、自助グループや回復者施設への紹介も一貫して行う。SBIRTSの構築については会員間でも更なる研鑽に努める必要がある。	C	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部
		R4	R3と同様の活動を目指とする。今年度は精神科病院でのコロナ感染が過年度よりも顕著であり、閉鎖的にならざるを得なかった。	C	
		R5	感染縮小傾向に敏感に反応しながら関係機関との積極的な連携を図る。		
		R6			
		R7			
		R3	・「札幌市依存症対策総合支援連携会議」を開催し、医療機関、相談機関、地域で支援を行う機関・団体・グループとの情報交換・連携を図った。 ・自助グループと依存症専門医療機関が協働開催した講座について、企画や周知に協力した。	B	札幌こころのセンター
		R4	・「札幌市依存症対策地域支援連携会議」を開催し、専門医療機関、相談機関、地域で支援を行う機関・団体・自助グループ等と意見交換を行い、連携を図った。（10/25WEB開催。※R4.8.22要綱改正を行い、会議名称を「札幌市依存症対策地域支援連携会議」に変更した。） ・自助グループ等を講師とした「家族セミナー」の開催や、自助グループが作成する機関紙配布の協力等を通じて、情報交換を行う機会を設け連携を図った。	B	
		R5	・「札幌市依存症対策地域支援連携会議」を開催し、専門医療機関、相談機関、地域で支援を行う機関・団体・自助グループ等と意見交換を行い、連携を図る。		
		R6			
		R7			
		R3	内科医とつながりをもち、啓発研修で内科医から報告をしていただき、ディスカッションを行った。	B	依存症治療拠点機関
		R4	内科医とつながりをもち、啓発研修でのディスカッションを行った（1回）。	B	
		R5	内科医を交えての啓発研修の継続と、他機関との連携体制づくりを模索する。		
		R6			
		R7			
		R3	まずは会員作業療法士への研修・啓発機会の提供により連携の準備性を高める。	B	北海道作業療法士会
		R4	会員作業療法士への研修・啓発機会の提供により連携の準備性を高める。（継続）	B	
		R5	会員作業療法士への研修・啓発機会の提供により連携の準備性を高める。（継続）		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	依存症に係る相談窓口について周知を図っている。	B	北海道産業保健総合支援センター
		R4	依存症に係る相談窓口について周知を図っている。	B	
		R5	依存症に係る相談窓口を周知する。		
		R6			
		R7			
		R3	アルコール依存症患者の治療を通じて、自助グループ等の種々の社会資源との連携を強化した。	B	北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室
		R4	アルコール依存症患者の治療を通じて、自助グループ等の種々の社会資源との連携を強化した。	B	
		R5	アルコール依存症患者の治療を通じて、自助グループ等の種々の社会資源との連携を強化する。		
		R6			
		R7			
		R3	(新型コロナウイルス感染症対策の観点から当初の予定行事を開催見合わせ)	D	北海道断酒連合会
		R4	研修会や市民公開セミナーなどを実施	B	
		R5	研修会や市民公開セミナーなどを実施(予定)		
		R6			
		R7			
		R3	自助グループへの積極的参加を促した。連携に関しては要請には随時応じた。	B	札幌マック
		R4	自助グループへの積極的参加を促した。連携に関しては要請には随時応じた。	B	
		R5	自助グループへの積極的参加を促す。連携に関しては要請には随時応じる。		
		R6			
		R7			
		R3	自助グループへの積極的参加を促した。連携に関しては要請には随時応じた。	B	札幌マック女性共同作業所
		R4	自助グループへの積極的参加を促し、連携に関しては要請には随時応じたが、7月以降、事業所の都合により活動を一時休止としたことから、対応の機会が減少した。	D	
		R5	自助グループへの積極的参加を促します。連携に関しては要請には随時応じて行きます。		
		R6			
		R7			

様式1 第2期北海道アルコール健康障害対策推進計画に係る取組状況一覧

<評価欄の見方>
A：取組は概ね達成（実施）した（取組としては終了）。
B：取組は概ね達成（実施）した（引き続き取り組む必要がある）。
C：取組は一定程度進んでいる。
D：取組はあまり進んでいない。

進行予防（二次予防）
(3) 飲酒運転等をした者に対する指導等

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
○飲酒運転等 をした者に対 する指導等	・飲酒運転違反者に対する 取消処分者講習等におい て、アルコール使用障害ス クリーニング（AUDIT）を 実施し、その評価結果か ら、必要に応じて減酒支援 （ブリーフインターベン ション）を行い、アルコー ル依存症が疑われる者に対 しては、専門医療機関への 受診や相談拠点への相談を 促します。	R3	取消処分者講習において、飲酒運転違反者に対して実施（557名に対し実施）	B	北海道警察本部交通部交通企画課
		R4	取消処分者講習において、飲酒運転違反者に対して実施（483名（令和4年中）に対し実施）	B	
		R5	取消処分者講習において、飲酒運転違反者に対して実施予定		
		R6			
		R7			
	・飲酒運転で検挙された道 内居住の違反者に対して送 付する「行政処分関係書 類」に保健指導を勧奨する 文書を同封し、保健指導を 実施します。	R3	保健指導を勧奨する文書を作成し、道警交通企画課に送付（保健指導実績7件）。	B	保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課
		R4	保健指導件数が少ない現状があることから、飲酒運転根絶条例を所管する環境生活部道民生活課と打合せを実施し効果的な取組について検討。2種類の保健指導勧奨文書を作成し、令和4年度の保健指導件数について検証することとした。	B	
		R5	2種類の保健指導勧奨文書について道警交通企画課に送付するとともに各保健所あて情報提供（R4.4月）（保健指導実績：第3四半期までに2件）		
		R6	保健指導を勧奨する文書を作成し、道警交通企画課に送付		
		R7			
		R3	違反者のうち、相談があった者へ保健指導を実施（件数（第2四半期まで）2件）	B	道立保健所
		R4	違反者のうち、相談があった者へ保健指導を実施（件数（第3四半期まで）2件）	B	
		R5	違反者のうち、相談があった者へ保健指導を実施		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	飲酒運転根絶啓発チラシによるアルコール健康障害に関する相談支援や保健指導につなげる啓発を実施（アリオ札幌で開催した「飲酒運転0キャンペーン」において、アルコール健康障害に関するパネルを掲示）	B	環境生活部くらし安全局道民生 活課交通安全担当
		R4	飲酒運転根絶啓発チラシによるアルコール健康障害に関する相談支援や保健指導につなげる啓発を実施（交通安全運動に伴う啓発活動や、R4.12.20ラソラ札幌で開催した「飲酒運転0（ゼロ）キャンペーン」において、啓発品の中にアルコール健康障害相談支援リーフレットを同封・合計約400人へ配布）	B	
		R5	飲酒運転根絶啓発チラシ及び相談支援リーフレットによるアルコール健康障害に関する相談支援や保健指導につなげる啓発を実施		
		R6			
		R7			
		R3	「北海道飲酒運転根絶に関する条例」に伴って相談勧奨に応じた者に対し、保健指導を実施した。	B	札幌こころのセンター
		R4	「北海道飲酒運転根絶に関する条例」に伴って相談勧奨に応じた者に対し、保健指導を実施。（ただし、第3四半期まで0件）	B	
		R5	「北海道飲酒運転根絶に関する条例」に伴って相談勧奨に応じた者に対し、保健指導を実施。		
		R6			
		R7			
	・飲酒運転事犯者に対しては、刑事施設や保護観察所における指導等を行う際に、相談機関の紹介や自助グループ等の支援活動、医療機関等の専門治療につなげる取組を推進します。	R3	保護観察付執行猶予判決を言い渡した裁判所の意見や、仮釈放を許可した地方更生保護委員会の決定に基づく特別遵守事項としての「飲酒運転防止プログラム」を2件実施した。これらについて、類型別処遇が認定されており、再犯等を予防のために、対象者やその家族に継続的に問題を解決するように働きかけ、場合によっては、医療機関、保健機関、民間支援団体の協力や支援を得られるよう働きかけた。	B	札幌保護観察所
		R4	保護観察付執行猶予判決を言い渡した裁判所の意見や、仮釈放を許可した地方更生保護委員会の決定に基づく特別遵守事項としての「飲酒運転防止プログラム」を2件実施した。また、個々の事件について嗜癖領域・アルコール（類型別処遇）が認定された場合は、アルコールによる問題行動が意思の力でコントロールすることが困難であることから、対象者の再犯等を予防するために、対象者やその家族に対して、問題行動の改善について長期的・継続的にかかわっていくことが重要であることを説明しつつ、特に医療機関、保健機関、民間支援団体の協力や支援を得られるよう積極的に働きかけた。	B	
		R5	保護観察付執行猶予判決を言い渡した裁判所の意見や、仮釈放を許可した地方更生保護委員会の決定に基づく特別遵守事項などに基づく「飲酒運転防止プログラム」を実施する。また、個々の事件において、アルコール類型と認定した場合には、再犯等を予防するために、対象者やその家族が問題を解決することができるように継続的に働きかけるとともに、医療機関、保健機関、民間支援団体等の協力や支援を得られるよう助言する。		
		R6			
		R7			
		R3	病気の症状としての飲酒運転に関する説明をした。各機関の要請には随時対応した。	B	札幌マック
		R4	病気の症状としての飲酒運転に関する説明を経験を通して伝えた。自助グループや専門医療機関の情報を伝えた。	B	
		R5	病気の症状としての飲酒運転に関する説明を経験を通して伝える。自助グループや専門医療機関の情報を伝える。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度 令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3 病気の症状としての飲酒運転に関する説明をした。各機関の要請には随時対応した。	B	札幌マック女性共同作業所
		R4 「病気の症状としての飲酒運転に関する説明を経験を通して伝える。自助グループや専門医療機関の情報を伝える。」と計画したが、アルコール依存症の当事者スタッフがいなかったことから、実行に移す機会はなかった。	D	
		R5 病気の症状としての飲酒運転に関する説明を経験を通して伝える。自助グループや専門医療機関の情報を伝える。		
		R6		
		R7		
○暴力・虐待・自殺未遂等をした者に対する指導等	・暴力・虐待、酩酊による事故を起こした者や自殺未遂者について、アルコール依存症等が疑われる場合には、精神保健福祉センター・保健所等を中心として地域の関係機関が連携し、本人やその家族を、アルコール関連問題の相談や自助グループ等の行う節酒・断酒に向けた支援、専門医療機関等における治療につなぐための取組を推進します。	R3 アルコール依存症等の背景をアセスメントしながら、対象者の相談支援に対応した。	B	道立保健所
		R4 アルコール依存症等の背景をアセスメントしながら、対象者の相談支援に対応した。	B	
		R5 アルコール依存症等の背景をアセスメントしながら、対象者の相談支援に対応する。		
		R6		
		R7		
		R3 心の電話や来所相談等を行い、自殺を考えている方やアルコール依存症等を疑われる方やご家族を支援した。	B	北海道立精神保健福祉センター
		R4 こころの電話相談や来所相談等を行い、自殺を考えている方やアルコール依存症等を疑われる方及びその家族の支援を行った。	B	
		R5 こころの電話相談や来所相談等を行い、自殺を考えている方やアルコール依存症等を疑われる方及びその家族を支援する。		
		R6		
		R7		
		R3 随時対応。同時に、対応が可能な専門的力量的育成のため、研修の機会を提供（研修情報の提供を含め）	B	北海道精神保健福祉士協会
		R4 随時対応。同時に、対応が可能な専門的力量的育成のため、研修の機会を提供（研修情報の提供を含め）	B	
		R5 随時対応。同時に、対応が可能な専門的力量的育成のため、研修の機会を提供（研修情報の提供を含め）		
		R6		
		R7		
		R3 会員は多様な相談から飲酒関連問題の存在を把握し、関係機関や会員相互の連携を通じて適切な支援の提供に努める。	B	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部
		R4 R3と同様の活動为目标とする。各会員が所属する機関において通常業務の一環として取り組んだ。	B	
		R5 前年度と同様の活動为目标とする。		
		R6		
		R7		
		R3 「札幌市依存症相談窓口」における相談において、相談者が専門医療機関及び自助グループ等につながるよう支援した。	B	札幌こころのセンター
		R4 「札幌市依存症相談窓口」において、本人・家族等へ電話・面接等で専門相談を実施し、相談者が専門医療機関及び自助グループ等につながるよう支援した。	B	
		R5 「札幌市依存症相談窓口」において、本人・家族等へ電話・面接等で専門相談を実施し、相談者が専門医療機関及び自助グループ等につながるよう支援する。		
		R6		
		R7		

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
・保健所、市町村等が開催する地域ケア会議や要保護児童対策地域協議会等の事例検討においては、暴力、虐待等の問題がある場合、不適切な飲酒の有無やアルコール依存症への対応についても検討し、必要に応じて関係機関と連携し支援を行います。	R3 必要に応じ、市町村等が開催する地域ケア会議や要対協に参加し、関係機関との連携の上、支援を実施	R3	必要に応じ、市町村等が開催する地域ケア会議や要対協に参加し、関係機関との連携の上、支援を実施	B	道立保健所
		R4	必要に応じ、市町村等が開催する地域ケア会議や要対協に参加し、関係機関との連携の上、支援を実施	B	
		R5	必要に応じ、市町村等が開催する地域ケア会議や要対協に参加し、関係機関との連携の上、支援を実施		
		R6			
		R7			
	R3 市町村が開催する地域ケア会議において、不適切飲酒やアルコール依存症等の問題がある場合、対応について検討できるよう関係機関と連携した支援を実施。	R3	市町村が開催する地域ケア会議において、不適切飲酒やアルコール依存症等の問題がある場合、対応について検討できるよう関係機関と連携した支援を実施。	B	保健福祉部高齢者支援局課高齢者保健福祉課
		R4	市町村が開催する地域ケア会議において、不適切飲酒やアルコール依存症等の問題がある場合、対応について検討できるよう関係機関と連携した支援を実施。	B	
		R5	市町村が開催する地域ケア会議において、不適切飲酒やアルコール依存症等の問題がある場合、対応について検討できるよう関係機関と連携した支援を実施。		
		R6			
		R7			
	R3 市町村が開催する要保護児童対策地域協議会等において、不適切飲酒やアルコール依存症等の問題がある場合、対応について検討できるよう関係機関と連携した支援を実施	R3	市町村が開催する要保護児童対策地域協議会等において、不適切飲酒やアルコール依存症等の問題がある場合、対応について検討できるよう関係機関と連携した支援を実施	B	保健福祉部子ども未来推進局子ども子育て支援課
		R4	市町村が開催する要保護児童対策地域協議会等において、不適切飲酒やアルコール依存症等の問題がある場合、対応について検討できるよう関係機関と連携した支援を実施	B	
		R5	必要に応じ、市町村等が開催する地域ケア会議や要対協に参加し、関係機関との連携の上、支援を実施		
		R6			
		R7			
	R3 必要時、保健所等への技術支援を通して対応について助言。	R3	必要時、保健所等への技術支援を通して対応について助言。	B	北海道立精神保健福祉センター
		R4	必要に応じ、保健所等への技術支援を行った。	B	
		R5	必要に応じ、保健所等への技術支援を行う。		
		R6			
		R7			
	R3 随時対応	R3	随時対応	B	北海道精神保健福祉士協会
		R4	随時対応	B	
		R5	随時対応		
		R6			
		R7			
	R3 会員は所属機関における業務で関係会議・協議会等に参加し、意見を述べると共に情報を共有・検討してフィードバックする。	R3	会員は所属機関における業務で関係会議・協議会等に参加し、意見を述べると共に情報を共有・検討してフィードバックする。	B	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部
		R4	R3と同様の活動为目标とする。会員は所属機関における業務で関係会議・協議会等に参加し、意見を述べると共に情報を共有・検討して当会例会にて検討した。	B	
		R5	前年度と同様の活動为目标とする。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	当センターが参加するケア会議・連絡会議において、飲酒問題や依存症の可能性のある事例については、関係機関と適宜連携・協働して支援を行った。	B	札幌こころのセンター
		R4	当センターが参加するケア会議・連絡会議において、飲酒問題や依存症の可能性のある事例については、関係機関と適宜連携・協働して支援を実施。	B	
		R5	当センターが参加するケア会議・連絡会議において、飲酒問題や依存症の可能性のある事例については、関係機関と適宜連携・協働して支援を実施。		
		R6			
		R7			
		R3	虐待予防や養育支援、近年注目のヤングケアラー対策として、アルコール課題のある保護者への働きかけ等、要対協機能を基軸に関係機関と連携し実施。	B	北海道中央児童相談所
		R4	虐待予防や養育支援、近年注目のヤングケアラー対策として、アルコール課題のある保護者への働きかけ等、要対協機能を基軸に関係機関と連携し実施した。	B	
		R5	虐待予防や養育支援、近年注目のヤングケアラー対策として、アルコール課題のある保護者への働きかけ等、要対協機能を基軸に関係機関と連携し実施する。		
		R6			
		R7			
	・アルコール依存症が自殺の危険因子の一つであることから、アルコール依存症が疑われる者について、地域の関係機関が連携の上、必要に応じて精神科医療につなげるとともに、北海道自殺対策行動計画に基づき、その背景にある心理社会的・経済的要因の視点も踏まえつつ、精神科医療、保健、福祉等の各施策の連動性を高め、包括的な対応を推進します。また、自殺・うつ・アルコール問題の相互の関係性を踏まえ、相談機関の連携体制の整備、総合的な相談対応ができる人材養成、自殺予防の啓発や飲酒後の自殺未遂者の再度の自殺企図の防止等	R3	9月の自殺予防週間、3月の自殺対策強化月間に併せて、アルコール問題との関係性を周知するため、アルコール健康障害に関する啓発資料を設置。	B	保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課
		R4	9月の自殺予防週間において、アルコール問題との関係性を周知するため、アルコール健康障害に関する啓発資料を設置した。3月の自殺対策強化月間についても、アルコール問題との関係性を周知する予定	B	
		R5	9月の自殺予防週間、3月の自殺対策強化月間に併せて、アルコール問題との関係性を周知する。		
		R6			
		R7			
		R3	行政課題研修「自殺対策研修」を開催し、自殺・うつ・アルコール問題の相互関係性を理解し、総合的な相談対応ができる人材を育成した。令和3年11月11日 86名参加	B	北海道立精神保健福祉センター
		R4	行政課題研修「自殺対策研修」を開催し、自殺・うつ・アルコール問題の相互関係性を理解し、総合的な相談対応ができる人材を育成した。（開催日：令和4年9月27日 参加者：62名）	B	
		R5	行政課題研修「自殺対策研修」を開催し、自殺・うつ・アルコール問題の相互関係性を理解し、総合的な相談対応ができる人材を育成する。		
		R6			
		R7			
		R3	関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。	B	北海道医師会
		R4	かかりつけ医等うつ病対応力向上研修のプログラムの中で「アルコール関連問題とうつ、自殺」「かかりつけ医でつながるアルコール依存症治療」について講演を行った。		
		R5	依頼に基づき、協力を検討いたします。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
	の対策を推進します。	R3	自殺対策に関する研修会等への参加を促進している。	C	北海道薬剤師会
		R4	自殺対策に関する研修会等への参加を促進している。	C	
		R5	自殺対策に関する研修会等への参加を促進する。		
		R6			
		R7			
		R3	医療保健領域における本会会員の活動を調査し、医療保健現場において効果的な集団精神療法等を行えるようにする。またアルコール依存症をはじめとする様々な依存症は、対人コミュニケーションの困難さを抱えているとともに、何らかのトラウマと関連していることもあり、こうした対人コミュニケーションの改善ならびに心的外傷へのアプローチを行う。	D	北海道臨床心理士会
		R4	・医療保健領域における本会会員の活動を調査し、医療保健現場において効果的な集団精神療法等を行えるようにする。またアルコール依存症をはじめとする様々な依存症は、対人コミュニケーションの困難さを抱えているとともに、何らかのトラウマと関連していることもあり、こうした対人コミュニケーションの改善ならびに心的外傷へのアプローチを行った。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席をし、本会会員への情報共有を図った。 ・ZOOMにて依存症支援についての情報交流会を開催し、当会会員の依存症支援についての知識と技術の向上を図った。 ・新年度より、医療保健領域委員会内に、新たにアディクション担当者を設置し、より専門的な研修や啓発活動を行った。	B	
		R5	・本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、会員への情報提供に努める。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席 ・医療保健領域における本会会員の活動を調査し、医療保健現場において効果的な集団精神療法等を行えるようにする。		
		R6			
		R7			
		R3	関係機関との連携を図りつつ、人員の派遣を含めて協働していく。	B	北海道精神保健福祉士協会
		R4	関係機関との連携を図りつつ、人員の派遣を含めて協働していく。	B	
		R5	関係機関との連携を図りつつ、人員の派遣を含めて協働していく。		
		R6			
		R7			
		R3	従来より、アディクションにおける自殺リスクに関して研鑽を積んでおり、この視点を含めた相談支援業務を行っている。また、研修会などでも取り上げたいと考えているがコロナウィルスの影響により今年度は未定である。会員各員がこれらの課題を包含した研修等に参加した。	C	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部
		R4	R3と同様の活動を目指とする。コロナウィルスにより全体的な活動の縮小を余儀なくされる中で、目立った自殺関連の情報共有が困難であった。	C	
		R5	感染縮小傾向に敏感に反応し、より積極的に状況の把握と情報の共有に努める。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	・「札幌市依存症対策総合支援連携会議」を開催し、医療機関、相談機関、地域で支援を行う機関・団体・グループとの情報交換・連携を図った。 ・「札幌市依存症相談窓口」等に相談があった相談者が、専門医療機関及び自助グループ等につながるよう支援した。 ・北海道及び北海道医師会との共催による「かかりつけ医等うつ病対応力向上研修」の中で、札幌市依存症専門医療機関の医師が地域医療に携わる医師及び産業医を対象に、「アルコール関連問題とうつ、自殺」について講話を実施した。	B	札幌こころのセンター
		R4	・「札幌市依存症対策地域支援連携会議」を開催し、専門医療機関、相談機関、地域で支援を行う機関・団体・自助グループ等と意見交換を行い、連携を図った。（10/25WEB開催。※R4.8.22要綱改正を行い、会議名称を「札幌市依存症対策地域支援連携会議」に変更した。） ・「札幌市依存症相談窓口」において、本人・家族等へ電話・面接等で専門相談を実施し、相談者が専門医療機関及び自助グループ等につながるよう支援した。	B	
		R5	・「札幌市依存症対策地域支援連携会議」を開催し、専門医療機関、相談機関、地域で支援を行う機関・団体・自助グループ等と意見交換を行い、連携を図る。 「札幌市依存症相談窓口」において、本人・家族等へ電話・面接等で専門相談を実施し、相談者が専門医療機関及び自助グループ等につながるよう支援する。		
		R6			
		R7			
		R3	会員作業療法士への研修・啓発機会の提供による自殺問題に関する連携の準備性を高める。Cの理由：自殺に焦点を当てた研修機会を設けられなかった。	C	北海道作業療法士会
		R4	会員作業療法士への研修・啓発機会の提供による自殺問題に関する連携の準備性を高める。Cの理由：自殺に焦点を当てた研修機会が不十分であった。	C	
		R5	会員作業療法士への研修・啓発機会の提供による自殺問題に関する連携の準備性を高める。		
		R6			
		R7			
		R3	自殺未遂者への対応に関して、アルコール依存症等の問題も含めた相談対応や再企図防止の対策について、関係の従事者への知識普及に努めた。	B	札幌医科大学医学部神経精神医学講座
		R4	自殺未遂者への対応に関して、アルコール依存症等の問題も含めた相談対応や再企図防止の対策について、関係の従事者への知識普及に努めた。	B	
		R5	自殺未遂者への対応に関して、アルコール依存症等の問題も含めた相談対応や再企図防止の対策について、関係の従事者への知識普及に努める。		
		R6			
		R7			

様式1 第2期北海道アルコール健康障害対策推進計画に係る取組状況一覧

<評価欄の見方>
A：取組は概ね達成（実施）した（取組としては終了）。
B：取組は概ね達成（実施）した（引き続き取り組む必要がある）。
C：取組は一定程度進んでいる。
D：取組はあまり進んでいない。

進行予防（二次予防）
（4）相談支援

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
○相談支援体制の構築	・道立精神保健福祉センターを全道の中心となる相談拠点とし、複雑又は困難なものに対応する相談対応を行います。また、保健所を各地域の相談拠点として位置づけ、市町村や自助グループ等の関係団体と連携した相談支援体制を構築します。	R3	地域の相談拠点として、住民や関係機関等からの相談に対応し地域の社会資源と連携した支援を行った。	B	道立保健所
		R4	地域の相談拠点として、住民や関係機関等からの相談に対応し地域の社会資源と連携した支援を行った。	B	
		R5	地域の相談拠点として、住民や関係機関等からの相談に対応し地域の社会資源と連携した支援を行う。		
		R6			
		R7			
		R3	電話相談で困難事例の対応を行います。また、道立保健所からの相談事例のコンサルテーションを行った。	B	北海道立精神保健福祉センター
		R4	複雑又は困難な相談に対する対応を行った。また、道立保健所からの相談事例のコンサルテーションを行った。	B	
		R5	複雑または困難な相談に対する対応を行う。また、道立保健所からの相談事例のコンサルテーションを行う。		
		R6			
		R7			
		R3	会員は専門医療医療を含めた医療機関や回復支援施設に所属しており、通常業務にて関係機関と緊密な連携を図る。	B	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部
		R4	R3と同様の活動を目指とする。会員が所属する機関で通常業務の一環として取り組んだ。	B	
		R5	前年度と同様の活動を目指とする。		
		R6			
		R7			
		R3	「札幌市依存症相談窓口」を札幌市依存症相談拠点に位置付け、本人・家族等からの相談に応じ、必要に応じて専門医療機関及び自助グループ等につながるよう支援した。	B	札幌こころのセンター
		R4	「札幌市依存症相談窓口」において、本人・家族等へ電話・面接等で専門相談を実施し、相談者が専門医療機関及び自助グループ等につながるよう支援した。	B	
		R5	「札幌市依存症相談窓口」において、本人・家族等へ電話・面接等で専門相談を実施し、相談者が専門医療機関及び自助グループ等につながるよう支援する。		
		R6			
		R7			
		R3	例会会場のほか電話による相談を実施	B	北海道断酒連合会
		R4	例会や研修会のほか電話による相談を実施	B	
		R5	例会や研修会のほか電話による相談を実施（予定）		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度 令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3 相談支援機関からの問い合わせに際し、可能な支援を提供した。直接の相談には、資源として各機関を紹介した。	B	札幌マック
		R4 相談支援機関からの問い合わせに際し、可能な支援を提供した。直接の相談には、当施設を含めた各機関・施設を紹介した。	B	
		R5 相談支援機関からの問い合わせに際し、可能な支援を提供する。直接の相談には、当施設を含めた各機関・施設を紹介する。		
		R6		
		R7		
		R3 相談支援機関からの問い合わせに際し、可能な支援を提供した。直接の相談には、資源として各機関を紹介した。	B	札幌マック女性共同作業所
		R4 相談支援機関からの問い合わせに際し、可能な支援を提供した。直接の相談には、当施設を含めた各機関・施設を紹介した。が、7月より事業所の都合により活動を休止したため、提供する機会と紹介する機会が減少した。	D	
		R5 相談支援機関からの問い合わせに際し、可能な支援を提供する。直接の相談には、当施設を含めた各機関・施設を紹介する。		
		R6		
		R7		
	・道立精神保健福祉センターや保健所から、適切な医療機関を紹介するほか、必要に応じて自助グループを紹介するなど、断酒や節酒に向けた支援を行います。	R3 支援対象者の状況に応じ、必要な社会資源を紹介し連携した支援を行った。	B	道立保健所
		R4 支援対象者の状況に応じ、必要な社会資源を紹介し連携した支援を行った。	B	
		R5 支援対象者の状況に応じ、必要な社会資源を紹介し連携した支援を行う。		
		R6		
		R7		
		R3 来所、電話、メール相談等を通して当事者、家族等に必要な社会資源を紹介した。	B	北海道立精神保健福祉センター
		R4 来所、電話、メール相談等を通して当事者、家族等に必要な社会資源を紹介した。	B	
		R5 来所、電話等を通して当事者、家族等に必要な社会資源を紹介する。		
		R6		
		R7		
		R3 会員は専門医療医療を含めた医療機関や回復支援施設に所属しており、日頃より、通常業務にて関係機関と緊密な連携を図るとともに、それぞれの機関においても積極的にプログラムを運営して回復支援を行う。	B	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部
		R4 R3と同様の活動を目標とする。会員が所属する機関で通常業務の一環として取り組んだ。	B	
		R5 前年度と同様の活動を目標とする。		
		R6		
		R7		
		R3 「札幌市依存症相談窓口」を札幌市依存症相談拠点に位置付け、本人・家族等からの相談に応じ、必要に応じて専門医療機関及び自助グループ等につながるよう支援した。	B	札幌こころのセンター
		R4 「札幌市依存症相談窓口」において、本人・家族等へ電話・面接等で専門相談を実施し、相談者が専門医療機関及び自助グループ等につながるよう支援した。	B	
		R5 「札幌市依存症相談窓口」において、本人・家族等へ電話・面接等で専門相談を実施し、相談者が専門医療機関及び自助グループ等につながるよう支援する。		
		R6		
		R7		

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
・保健所による中小企業への普及啓発や出前講座、保健所主催のミーティングの開催等の取組を促進するなど、地域及び職域での様々な場面における相談支援を充実します。	R3	アルコールに関する健康教育の依頼があった際は随時対応。保健所主催のミーティングは新型コロナウイルス感染症の影響により中止されているところがある。		C	道立保健所
	R4	アルコールに関する健康教育の依頼があった際は随時対応した。保健所主催のミーティングについては、新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえ、可能な範囲で開催した。		B	
	R5	アルコールに関する健康教育の依頼があった際は随時対応する。			
	R6				
	R7				
・大規模自然災害、感染症の流行等の危機に際しても、依存症当事者やその家庭が回復に向けた取組を継続できるよう地域の関係機関と連携し支援を行います。	R3	胆振東部地震の災害支援として、被災地職員の健康教育を行い、アルコール健康障害とその予防について知識を広めた。 アルコールに係る健康教育0件、職員健康面接4件実施		B	北海道立精神保健福祉センター
	R4	胆振東部地震の災害支援の継続として、厚真町において実施した（安平町、むかわ町は要望なく終了）。厚真町被災地職員支援としてアルコール健康障害と自殺の関係等を含めた健康教育（GK研修基礎編5回：113名、スキルアップ編4回：82名）、及びこころの相談体制整備事業（相談5件）を実施した。		A	
	R5	胆振東部地震の災害支援後のフォローアップとして、必要時相談対応等を行う。			
	R6				
	R7				
	R3	関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。			北海道医師会
	R4	関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。			
	R5	依頼に基づき、協力を検討いたします。			
	R6				
	R7				
	R3	医療保健領域における本会会員の活動を調査し、医療保健現場において効果的な集団精神療法等を行えるようにする。またアルコール依存症をはじめとする様々な依存症は、対人コミュニケーションの困難さを抱えているとともに、何らかのトラウマと関連していることもあり、こうした対人コミュニケーションの改善ならびに心的外傷へのアプローチを行う。		D	北海道臨床心理士会
	R4	・医療保健領域における本会会員の活動を調査し、医療保健現場において効果的な集団精神療法等を行えるようにする。またアルコール依存症をはじめとする様々な依存症は、対人コミュニケーションの困難さを抱えているとともに、何らかのトラウマと関連していることもあり、こうした対人コミュニケーションの改善ならびに心的外傷へのアプローチを行った。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席をし、本会会員への情報共有を図った。 ・ZOOMにて依存症支援についての情報交流会を開催し、当会会員の依存症支援についての知識と技術の向上を図った。 ・新年度より、医療保健領域委員会内に、新たにアディクション担当者を設置し、より専門的な研修や啓発活動を行った。		B	
	R5	・本会は多領域にまたがった職域を担っているため、医療、福祉、教育、司法等の分野の横断的な問題と位置づけ、会員への情報提供に努める。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席 ・医療保健領域における本会会員の活動を調査し、医療保健現場において効果的な集団精神療法等を行えるようにする。			
	R6				
	R7				

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度 令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3 災害時支援体制を協会として構築している。災害時においては、地元自治体・関係機関との連携を図りながら、支援を行っていく。	B	北海道精神保健福祉士協会
		R4 災害時支援体制を協会として構築している。災害時においては、地元自治体・関係機関との連携を図りながら、支援を行っていく。	B	
		R5 災害時支援体制を協会として構築している。災害時においては、地元自治体・関係機関との連携を図りながら、支援を行う。		
		R6		
		R7		
		R3 アディクションが生活問題に多様な影響を及ぼすことに関心を持っており、特に災害時やその後のアディクション・自殺等を視点に入れた研修を開催しているが、今年度はコロナウィルスの影響により開催は未定である。	C	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部
		R4 コロナ禍でも対応できる研修体制を構築する。 オンラインやハイブリッドのシステムが充実しつつあり、これまでよりも連携・連絡体制が感染状況に影響を受けにくくなった。	B	
		R5 前年度の活動をより促進するように努める。		
		R6		
		R7		
		R3 家族を対象とした「家族セミナー」の開催にあたっては、オンラインでの参加も可能とした。	B	札幌こころのセンター
		R4 「家族セミナー」の開催にあたっては、オンライン参加も含めたハイブリッド開催とし、コロナ禍においても対面によらない方法で参加できるよう工夫した。（第1回8/3(3名参加)、第2回1/18(6名参加)開催。第3回3/10開催予定。）	B	
		R5 ・「札幌市依存症相談窓口」において、本人・家族等への相談の実施、災害等対応を行う地域の支援者に対して依存症に係る技術指導及び技術援助を行っていく。		
		R6		
		R7		
		R3 会員作業療法士への研修・啓発機会の提供により災害時等における連携の準備性を高める。	B	北海道作業療法士会
		R4 会員作業療法士への研修・啓発機会の提供により災害時等における連携の準備性を高める。（継続）	B	
		R5 会員作業療法士への研修・啓発機会の提供により災害時等における連携の準備性を高める。（継続）		
		R6		
		R7		
		R3 依存症当事者やそ家族に対して、必要な臨床的支援が得られるように努めた。	B	札幌医科大学医学部神経精神医学講座
		R4 依存症当事者やそ家族に対して、必要な臨床的支援が得られるように努めた。	B	
		R5 依存症当事者やそ家族に対して、必要な臨床的支援が得られるように努める。		
		R6		
		R7		

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
	・相談窓口や関係機関を掲載した「アルコール健康障害対策支援機関アクセスマップ」を配布するなど、周知啓発活動を行います。	R3	手軽にアクセスできるようにQRコードなどを掲載したポスターの配布や掲示(普及啓発週間、アリオ札幌でポスター掲示)。関係機関については随時確認し更新を行い、内容の充実を図った。	B	保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課
		R4	手軽にアクセスできるようにQRコードなどを掲載したポスターの配布や掲示(道医師会の7月医報同封により医療機関あて8,500部送付、普及啓発週間)。関係機関については随時確認し更新を行い、内容の充実を図った。	B	
		R5	手軽にアクセスできるようにQRコードなどを掲載したポスターの配布や掲示(普及啓発週間、アリオ札幌でポスター掲示)。関係機関については随時確認し更新を行い、内容の充実を図る。		
		R6			
		R7			
		R3	相談窓口や関係機関を掲載した「アルコール健康障害対策支援機関アクセスマップ」を相談者に配布。	B	北海道立精神保健福祉センター
		R4	相談窓口や関係機関を掲載した「アルコール健康障害対策支援機関アクセスマップ」を相談者に配布した。	B	
		R5	相談窓口や関係機関を掲載した「アルコール健康障害対策支援機関アクセスマップ」を相談者に配布する。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
○相談支援従事者の育成	・依存症治療拠点機関、精神保健福祉センターにおいて、保健所及びアルコール関連問題に関する関係機関に対し、従事者の研修、啓発等を行うことにより、相談支援を行う者の人材育成、関係機関の連携体制の強化を図ります。	R3	相談援助技術研修「依存症研修」を開催し、支援に係る人材の育成を図った。 令和3年10月15日 令和3年度（2021年度）相談援助技術研修「依存症研修」96名参加	B	北海道立精神保健福祉センター
		R4	相談援助技術研修「依存症研修」を開催し、支援に係る人材の育成を図った。 令和4年10月20・21日 令和4年度（2022年度）相談援助技術研修「依存症研修」20日49名、21日48名参加。 教育研修（e-ラーニング事業）を新規事業として実施した。基礎疾患の理解（依存症）として、9月5日～30日、1月10日～2月3日まで2回配信した。	B	
		R5	相談援助技術研修「依存症研修」を開催し、支援に係る人材の育成を図る。		
		R6			
		R7			
		R3	研修の機会の提供（情報提供を含む）	B	北海道精神保健福祉士協会
		R4	研修の機会の提供（情報提供を含む）	B	
		R5	研修の機会の提供（情報提供を含む）		
		R6			
		R7			
		R3	研修が開催される場合は聴講、および必要に応じて講師の派遣、その他において積極的に参加・協力する。	C	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部
		R4	コロナ禍でも対応できる研修体制を構築する。オンラインやハイブリッドのシステムが充実により、研修・連携の機会が増えた。	B	
		R5	前年度の活動をより促進するように努める。		
		R6			
		R7			
		R3	・地域における生活を支援する機関の職員を対象に、高齢者と依存症問題をテーマにした研修会及び事例検討会を依存症治療拠点機関等へ委託して開催した。 ・依存症の支援に必要な人材を養成する国の研修について、医療機関への周知に協力した。	B	札幌こころのセンター
		R4	・地域における生活を支援する機関の職員を対象に、依存症患者等の支援を担う人材養成のための研修を、依存症治療拠点機関へ委託して開催した。（第1回10/28、第2回12/9開催。第3回2/17開催予定。） ・依存症の支援に必要な人材を養成する国の研修について、医療機関への周知に協力した。	B	
		R5	・地域における生活を支援する機関の職員を対象に、依存症患者等の支援を担う人材養成のための研修を、依存症治療拠点機関へ委託して開催する。 ・依存症の支援に必要な人材を養成する国の研修について、医療機関への周知に協力する。		
		R6			
		R7			
		R3	啓発研修会を実施。精神保健福祉センターなどで行なわれる研修会に協力した。	B	依存症治療拠点機関
		R4	依存症支援者研修会（2回）・啓発研修会（4回）を実施した。精神保健福祉センターなどで行なわれる研修会への協力した。	B	
		R5	依存症支援者研修会、啓発研修会の開催。精神保健福祉センター主催の研修会への協力の継続		
		R6			
		R7			

様式1 第2期北海道アルコール健康障害対策推進計画に係る取組状況一覧

<評価欄の見方>
A：取組は概ね達成（実施）した（取組としては終了）。
B：取組は概ね達成（実施）した（引き続き取り組む必要がある）。
C：取組は一定程度進んでいる。
D：取組はあまり進んでいない。

再発予防（三次予防）
(1) 社会復帰への支援

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
○アルコール 依存症からの 回復支援	・アルコール依存症は、治療や回復に向けた支援を行うことにより回復できる病気であり、社会復帰が可能であること等、職域を含めた社会全体に啓発し、アルコール依存症に対する理解を促します。	R3	啓発週間では、アルコール関連問題啓発週間ポスターを関係機関に配布し啓発を依頼、SNSでの掲載(北海道健康づくりTwitter)やイベントでの配布による周知。当課ホームページ(依存症対策支援機関アクセスマップ)掲載、関係機関への周知依頼、道庁1階のホール等を活用したポスターの掲示、リーフレット等設置(10/15～10/17)による普及啓発を実施した。 道ホームページ広報資料(10月号)にAUDIT、相談窓口を掲載。依存症Web講演会(10/19オンライン開催)、普及啓発セミナー(11/27オンライン開催)を企画実施した。 大学生に向けた啓発用の依存症リーフレットを作成し、大学学生相談室あて送付し相談での活用を依頼した。	B	保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課
		R4	啓発資料やホームページ等を活用し普及啓発を行った。アルコール健康障害・依存症予防啓発ポスターの配布(道医師会の7月医報同封により8,500部送付)した。オンライン道民健康セミナーを開催(8/6午後オンライン開催・8/8～8/22オンデマンド配信)した(当日視聴26人・オンデマンド配信視聴101人)。プログラム：アルコール摂取と健康への影響(北海道大学病院消化器内科 中井医師)、お酒のことで困ったら(手稲溪仁会病院精神保健科 白坂医師)	B	
		R5	啓発資料やホームページ等を活用し普及啓発を行う。		
		R6			
		R7			
		R3	ホームページ等により飲酒による影響等について普及啓発を行った。	B	道立保健所
		R4	ホームページ等により飲酒による影響等について普及啓発を行った。	B	
		R5	ホームページ等により飲酒による影響等について普及啓発を行う。		
		R6			
		R7			
		R3	相談援助技術研修依存症研修を開催し、アルコール依存症への理解を促した。 令和3年10月15日 令和3年度(2021年度)相談援助技術研修「依存症研修」96名参加	B	北海道立精神保健福祉センター
		R4	相談援助技術研修「依存症研修」を開催し、アルコール依存症への理解を促した。 令和4年度(2022年度)相談援助技術研修「依存症研修」を実施した。(開催日：令和4年10月20～21日、参加者：20日 49名、21日 48名) 教育研修(e-ラーニング事業)を新規事業として実施した。基礎疾患の理解(依存症)として、9月5日～30日、1月10日～2月3日まで2回配信した。	B	
		R5	相談援助技術研修依存症研修を開催し、アルコール依存症への理解を促す。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度 令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3 中・高等学校の学習指導要領（体育・保健体育）を基に体育・保健体育・保健授業で児童・生徒に指導した。	B	北海道教育委員会
		R4 中・高等学校の学習指導要領（体育・保健体育）を基に体育・保健体育・保健授業で児童・生徒に指導した。	B	
		R5 中・高等学校の学習指導要領（体育・保健体育）を基に体育・保健体育・保健授業で児童・生徒に指導する。		
		R6		
		R7		
		R3 関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。		北海道医師会
		R4 かかりつけ医等うつ病対応力向上研修のプログラムの中で「アルコール関連問題とうつ、自殺」「かかりつけ医でつながるアルコール依存症治療」について講演を行った。	B	
		R5 依頼に基づき、協力を検討いたします。		
		R6		
		R7		
		R3 ー		北海道精神科病院協会
		R4 断酒会、AA等の自助グループとの連携し、長期断酒を応援する。他の薬物やギャンブル等の依存症、うつ病や認知症等の重複障害を含む治療を行い、断酒を図る。	B	
		R5 断酒会、AA等の自助グループとの連携し、長期断酒を応援する。他の薬物やギャンブル等の依存症、うつ病や認知症等の重複障害を含む治療を行い、断酒を図る。		
		R6		
		R7		
		R3 地域連携の中、アルコール問題を抱える人の見守りを続け、治療中断者には電話や訪問による声かけを行う。	B	北海道精神神経科診療所協会
		R4 地域連携の中、アルコール問題を抱える人の見守りを続け、治療中断者には電話や訪問による声かけを行う。	B	
		R5 地域連携の中、アルコール問題を抱える人の見守りを続け、治療中断者には電話や訪問による声かけを行う。		
		R6		
		R7		
		R3 医療保健機関や自助グループとも連携し、引き続き対人コミュニケーションならびに心的外傷が認められる人への臨床心理学的アプローチに努めていく。	D	北海道臨床心理士会
		R4 ・医療保健機関や自助グループとも連携し、引き続き対人コミュニケーションならびに心的外傷が認められる人への臨床心理学的アプローチに努めた。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席をし、本会会員への情報共有を図った。 ・ZOOMにて依存症支援についての情報交流会を開催し、当会会員の依存症支援についての知識と技術の向上を図った。 ・新年度より、医療保健領域委員会内に、新たにアディクション担当者を設置し、より専門的な研修や啓発活動を行った。	B	
		R5 ・医療保健機関や自助グループとも連携し、引き続き対人コミュニケーションならびに心的外傷が認められる人への臨床心理学的アプローチに努める。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席をし、本会会員への情報共有を図る。		
		R6		
		R7		

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	随時対応	B	北海道精神保健福祉士協会
		R4	随時対応	B	
		R5	随時対応		
		R6			
		R7			
		R3	・依存症リカバリーソーシャルワークチームの活動 ・専門職の相談窓口、専門治療先の窓口の公開	C	北海道医療ソーシャルワーカー協会
		R4	・依存症リカバリーソーシャルワークチームの活動 ・専門職の相談窓口、専門治療先の窓口の公開	C	
		R5	・依存症リカバリーソーシャルワークチームの活動 ・専門職の相談窓口、専門治療先の窓口の公開		
		R6			
		R7			
		R3	会員は所属機関において回復支援をおもな業務としており、その実践において社会生活、就労も視野に入れて活動する。コロナ禍で自助グループや中間施設等との往来がしにくい状況になっている。	C	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部
		R4	地域支援がコロナ禍以前と同様にできることを目標としていく。会員が所属する機関において業務の一環として取り組んだが、昨年度は精神科病院でのクラスターが多発し、対外的な活動は縮小せざるを得ない場面が多く見られた。	C	
		R5	感染縮小傾向に敏感に反応し、より積極的に状況の把握と情報の発信に努める。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	・家族を対象とした「家族セミナー」を開催し、専門医療機関の医師による講話・自助グループの紹介・体験談発表・自助グループメンバーによる相談会などを実施した。 ・当センター作成の「依存症相談窓口・依存症専門医療機関周知チラシ」及び各種リーフレット類の配架、当センターホームページ・SNS等においての情報発信を行い、普及啓発を図った。	B	札幌こころのセンター
		R4	・自助グループ（当事者）等を講師とした「家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行った。（第1回8/3(3名参加)、第2回1/18(6名参加)開催。第3回3/10開催予定。） ・自助グループが作成する機関紙について、相談窓口の他、区役所にも配架し、自助グループの活動について、より多くの市民への普及を図った。 ・啓発週間でのポスター掲示や、チラシ・リーフレット等の配布、依存症に関する情報や取組を当センターホームページ・SNS等に掲載し、情報発信を行った。	B	
		R5	・自助グループ等を講師とした「家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行う。 ・自助グループが作成する機関紙について、相談窓口の他、区役所にも配架し、自助グループの活動について、より多くの市民への普及を図る。 ・啓発週間でのポスター掲示や、チラシ・リーフレット等の配布、依存症に関する情報や取組を当センターホームページ・SNS等に掲載し、情報発信を行う。		
		R6			
		R7			
		R3	会員作業療法士への研修・啓発機会の提供	B	北海道作業療法士会
		R4	会員作業療法士への研修・啓発機会の提供（継続）	B	
		R5	会員作業療法士への研修・啓発機会の提供（継続）		
		R6			
		R7			
		R3	アルコール依存症の治療や回復に向けた道筋等について、大学や各種専門学校等の講義やセミナーにおいて取り上げ、正しい知識の普及に努めた。	B	札幌医科大学医学部神経精神医学講座
		R4	アルコール依存症の治療や回復に向けた道筋等について、大学や各種専門学校等の講義やセミナーにおいて取り上げ、正しい知識の普及に努めた。	B	
		R5	アルコール依存症の治療や回復に向けた道筋等について、大学や各種専門学校等の講義やセミナーにおいて取り上げ、正しい知識の普及に努める。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度 令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3 精神保健福祉専門職を対象にアルコール等の依存症に関するWEB研修を3～4回実施した。	B	北海道アルコール保健医療と地域ネットワーク研究会
		R4 R3同様に拠点病院と連携してZoom中心に年3～4回セミナーを実施。将来的には全国学会による他地域との連携をするため道内のアルコール関連問題についてのネットワークを強化する活動をしていきたい。 北海道ネット主催研修として、依存症やひきこもりなどに対する基本的な面接技法である動機づけ面接セミナーを開催（参加者約50名）、共催でのZOOMセミナーを3回（8/5、11/4、3/24（予定））、北海道オンライン道民健康セミナーへの後援。 また、アルコール健康障害対策基本法を推進することを目的とした民間組織であるアル法ネットに幹事団体として参画し、依存症対策の普及啓発に寄与した。	B	
		R5 前年度と同様に年数回、専門職向けのセミナーを開催する予定		
		R6		
		R7		
		R3 主要機関のコロナクラスターなどあり、今季実績なし。	D	北海道アルコール看護研究会
		R4 年1回～3回の精神科専門職対象の研修会を行い、専門知識をつけることで、地域における適切なケアや医療における適切な治療につなげる。 R4年度は6月11日にWEBにて研修を開催。医師、看護師、保健師、精神保健福祉士、作業療法士などが参加した。総勢29名の参加だった。	B	
		R5 年1回～3回の精神科専門職対象の研修会を行い、専門知識をつけることで、地域における適切なケアや医療における適切な治療につなげる。		
		R6		
		R7		
		R3 （新型コロナウイルス感染症対策の観点から当初の予定行事を開催見合わせ。印刷物やホームページ、SNS等を利用した活動のみ実施）	C	北海道断酒連合会
		R4 ・市民や家族を対象にした「お酒と健康を考える市民フォーラム」や「家族セミナー」を自助グループと共催等により実施し、アルコール健康障害に対する正しい知識の普及啓発を図った。 ・北海道内の依存症相談窓口と専門医療機関についての普及周知チラシ、ホームページ、SNS等を利用し市民に対しアルコール健康障害や依存症についての普及啓発を図った。	B	
		R5 ・市民や家族を対象にした「お酒と健康を考える市民フォーラム」や「家族セミナー」を自助グループと共催等により実施し、アルコール健康障害に対する正しい知識の普及啓発を図る。 ・北海道内の依存症相談窓口と専門医療機関についての普及周知チラシ、ホームページ、SNS等を利用し市民に対しアルコール健康障害や依存症についての普及啓発を図る。		
		R6		
		R7		

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度 令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3 セミナーは中止としたが、関係機関に施設のプログラムの概要を紹介し、当事者の経験談を提供した。施設見学は随時受け入れた。	B	札幌マック
		R4 (当事者を受入、入所施設にて回復のプログラムを実践していることを含め) 関係機関に施設のプログラムの概要を紹介し、当事者の経験談を提供する。施設見学は随時受け入れた。セミナーを開催し、広く回復をPRした。	B	
		R5 (当事者を受入、入所施設にて回復のプログラムを実践していることを含め) 関係機関に施設のプログラムの概要を紹介し、当事者の経験談を提供する。施設見学は随時受け入れる。セミナーを開催し、広く回復をPRする。		
		R6		
		R7		
		R3 セミナーは中止としたが、関係機関に施設のプログラムの概要を紹介し、当事者の経験談を提供した。施設見学は随時受け入れた。	B	札幌マック女性共同作業所
		R4 「(当事者を受入、入所施設にて回復のプログラムを実践していることを含め) 関係機関に施設のプログラムの概要を紹介し、当事者の経験談を提供する。施設見学は随時受け入れる。セミナーを開催し、広く回復をPRする。」と計画したが、7月より事業所の都合により活動を一時休止としたことにより、問い合わせが減少した。セミナーは1名いる職員が参加し、現状の説明を行った。	D	
		R5 (当事者を受入、入所施設にて回復のプログラムを実践していることを含め) 関係機関に施設のプログラムの概要を紹介し、当事者の経験談を提供する。施設見学は随時受け入れる。セミナーを開催し、広く回復をPRする。		
		R6		
		R7		
		R3 当事者の社会復帰支援として障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスとして宿泊型自立訓練及び自立訓練(生活訓練)の事業を提供して行った。また、コロナ過の中ではあるが開催可能な状況ならば依存症からの回復をテーマにサマリヤ館セミナー11月23日か でる27の大会議室にて入館者や退館者の回復への体験談を中心に、当事者、家族、各関係者の方々が参加していただきセミナーを 開催予定でだったが、コロナ感染予防のため中止とした。	B	青十字サマリヤ会
		R4 当事者の社会復帰支援として障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスとして宿泊型自立訓練及び自立訓練(生活訓練)の事業を提供した。また、コロナ過の中ではあるが開催可能な状況ならば、依存症からの回復をテーマにサマリヤ館セミナーを11月23日にか でる27の大会議室にて開催し、入館者や退館者の回復への体験談を中心に、当事者、家族、各関係者の方々に参加いただく予定 だったが、コロナ感染予防のため中止とした。	B	
		R5 当事者の社会復帰支援として障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスとして宿泊型自立訓練及び自立訓練(生活訓練)の事業を提供して行く。また、コロナ過の中ではあるが開催可能な状況ならば依存症からの回復をテーマにサマリヤ館セミナー11月23日か でる27の大会議室にて入館者や退館者の回復への体験談を中心に、当事者、家族、各関係者の方々が参加していただきセミナーを開 催したい。		
		R6		
		R7		

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
・自助グループの活動や回復施設等の取組について関係機関で情報を共有し、相談者が適切な支援につながるよう情報提供を行い、自助グループ及び回復施設の活用につなげます。	R3 支援対象者の状況に応じ、必要な社会資源を紹介し連携した支援を行った。	R3	支援対象者の状況に応じ、必要な社会資源を紹介し連携した支援を行った。	B	道立保健所
		R4	支援対象者の状況に応じ、必要な社会資源を紹介し連携した支援を行った。	B	
		R5	支援対象者の状況に応じ、必要な社会資源を紹介し連携した支援を行う。		
		R6			
		R7			
	R3 北海道立精神保健福祉センター依存症対策連携会議を開催し、関係機関と連携を図った。 令和3年10月26日 令和3年度（2021年度）北海道立精神保健福祉センター依存症対策連携会議	R3	北海道立精神保健福祉センター依存症対策連携会議を開催し、関係機関と連携を図った。 令和3年10月26日 令和3年度（2021年度）北海道立精神保健福祉センター依存症対策連携会議	B	北海道立精神保健福祉センター
		R4	北海道依存症対策連携会議を開催し、関係機関と連携を図った。 令和4年度（2022年度）北海道依存症対策連携会議（開催日：令和4年10月25日）	B	
		R5	北海道依存症対策連携会議を開催し、関係機関と連携を図る。		
		R6			
		R7			
	R3 関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。 R4 関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。 R5 依頼に基づき、協力を検討いたします。	R3	関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。		北海道医師会
		R4	関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。		
		R5	依頼に基づき、協力を検討いたします。		
		R6			
		R7			
	R3 ー R4 断酒会、AA等の自助グループとの連携し、長期断酒を応援する。他の薬物やギャンブル等の依存症、うつ病や認知症等の重複障害を含む治療を行い、断酒を図る。 R5 断酒会、AA等の自助グループとの連携し、長期断酒を応援する。他の薬物やギャンブル等の依存症、うつ病や認知症等の重複障害を含む治療を行い、断酒を図る。	R3	ー		北海道精神科病院協会
		R4	断酒会、AA等の自助グループとの連携し、長期断酒を応援する。他の薬物やギャンブル等の依存症、うつ病や認知症等の重複障害を含む治療を行い、断酒を図る。	B	
		R5	断酒会、AA等の自助グループとの連携し、長期断酒を応援する。他の薬物やギャンブル等の依存症、うつ病や認知症等の重複障害を含む治療を行い、断酒を図る。		
		R6			
		R7			
	R3 アルコール問題を抱える人を自助グループにつなげ、ミーティングに参加し続けられるよう支援する。 R4 アルコール問題を抱える人を自助グループにつなげ、ミーティングに参加し続けられるよう支援する。 R5 アルコール問題を抱える人を自助グループにつなげ、ミーティングに参加し続けられるよう支援する。	R3	アルコール問題を抱える人を自助グループにつなげ、ミーティングに参加し続けられるよう支援する。	B	北海道精神神経科診療所協会
		R4	アルコール問題を抱える人を自助グループにつなげ、ミーティングに参加し続けられるよう支援する。	B	
		R5	アルコール問題を抱える人を自助グループにつなげ、ミーティングに参加し続けられるよう支援する。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	医療保健機関や自助グループとも連携し、引き続き対人コミュニケーションならびに心的外傷が認められる人への臨床心理学的アプローチに努めていく。	D	北海道臨床心理士会
		R4	・医療保健機関や自助グループとも連携し、引き続き対人コミュニケーションならびに心的外傷が認められる人への臨床心理学的アプローチに努めた。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席をし、本会会員への情報共有を図った。 ・ZOOMにて依存症支援についての情報交流会を開催し、当会会員の依存症支援についての知識と技術の向上を図った。 ・新年度より、医療保健領域委員会内に、新たにアディクション担当者を設置し、より専門的な研修や啓発活動を行った。	B	
		R5	・医療保健機関や自助グループとも連携し、引き続き対人コミュニケーションならびに心的外傷が認められる人への臨床心理学的アプローチに努める。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席をし、本会会員への情報共有を図る。		
		R6			
		R7			
		R3	自助グループとの連携・自助グループに関する情報提供を行っていく（情報の更新を含め）	B	北海道精神保健福祉士協会
		R4	自助グループとの連携・自助グループに関する情報提供を行っていく（情報の更新を含め）	B	
		R5	自助グループとの連携・自助グループに関する情報提供を行っていく（情報の更新を含め）		
		R6			
		R7			
		R3	会員が回復支援施設にも在籍しており、医療機関所属の会員と緊密な連携を継続して図る。自助グループ・回復者施設には患者の紹介に限らず、イベント等で積極的に関与していく。	B	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部
		R4	地域支援がコロナ禍以前と同様にできることを目標としていく。会員が所属する機関において業務の一環として取り組んだが、昨年度は精神科病院でのクラスターが多発し、対外的な活動は縮小せざるを得ない場面が多く見られた。	C	
		R5	感染縮小傾向に敏感に反応し、関係機関との連携強化に努める。		
		R6			
		R7			
		R3	「札幌市依存症対策総合支援連携会議」等において関係機関間で活動について情報交換した。	B	札幌こころのセンター
		R4	「札幌市依存症対策地域支援連携会議」を開催し、専門医療機関、相談機関、地域で支援を行う機関・団体・自助グループ等と意見交換を行い、連携を図った。（10/25WEB開催。※R4.8.22要綱改正を行い、会議名称を「札幌市依存症対策地域支援連携会議」に変更した。）	B	
		R5	「札幌市依存症対策地域支援連携会議」を開催し、専門医療機関、相談機関、地域で支援を行う機関・団体・自助グループ等と意見交換を行い、連携を図る。		
		R6			
		R7			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度 令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3 会員作業療法士への研修機会を通した自助グループ等の活動の情報共有	B	北海道作業療法士会
		R4 会員作業療法士への研修機会を通した自助グループ等の活動の情報共有（継続）	B	
		R5 会員作業療法士への研修機会を通した自助グループ等の活動の情報共有（継続）		
		R6		
		R7		
		R3 HP等による情報提供を図った。	B	北海道産業保健総合支援センター
		R4 HP等による情報提供を行った。	B	
		R5 HP等による情報提供を行う。		
		R6		
		R7		
		R3 自助グループの活動や回復施設等の取組について、相談者に適宜必要な情報を提供した。	B	札幌医科大学医学部神経精神医学講座
		R4 自助グループの活動や回復施設等の取組について、相談者に適宜必要な情報を提供した。	B	
		R5 自助グループの活動や回復施設等の取組について、相談者に適宜必要な情報を提供する。		
		R6		
		R7		
		R3 必要に応じて地域活動等の情報を提供	B	北海道断酒連合会
		R4 必要に応じて地域活動等の情報を提供	B	
		R5 必要に応じて地域活動等の情報を提供（予定）		
		R6		
		R7		
		R3 関係機関との情報の共有を図った。自助グループの会場の開催状況を把握し、適切な情報を伝えた。	B	札幌マック
		R4 関係機関との情報の共有を図った。自助グループの会場の開催状況を把握し、適切な情報を伝えた。	B	
		R5 関係機関との情報の共有を図る。自助グループの会場の開催状況を把握し、適切な情報を伝える。		
		R6		
		R7		
		R3 関係機関との情報の共有を図った。自助グループの会場の開催状況を把握し、適切な情報を伝えた。	B	札幌マック女性共同作業所
		R4 関係機関との情報の共有を図った。自助グループの会場の開催状況を把握し、適切な情報を伝えた。事業所は7月より活動を休止としているが、取り組み内容については、事務所内において職員が対応した。	B	
		R5 関係機関との情報の共有を図る。自助グループの会場の開催状況を把握し、適切な情報を伝える。		
		R6		
		R7		

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
・本人の治療、回復には、 家族の協力が重要であり、 家族に対し、当事者と同様 の支援や治療に関する情報 を提供することにより、家 族自身がアルコール依存症 への理解を深められるよう 支援します。	R3	家族も含めた相談支援を行い、家族がアルコール依存症について理解を深めることができるよう関わった。	B	道立保健所	
	R4	家族も含めた相談支援を行い、家族がアルコール依存症について理解を深めることができるよう関わった。	B		
	R5	家族も含めた相談支援を行い、家族がアルコール依存症について理解を深めることができるよう関わる。			
	R6				
	R7				
	R3	全道域で活動する精神保健福祉団体に対する支援協力を図った。 ご家族からの相談に対してアルコール健康障害についての情報を提供し、支援した。	B	北海道立精神保健福祉センタ	
	R4	全道域で活動する精神保健福祉団体に対する支援協力を図った。 家族からの相談に対してアルコール健康障害についての情報を提供し、支援した。	B		
	R5	全道域で活動する精神保健福祉団体に対する支援協力する。 家族からの相談に対してアルコール健康障害についての情報を提供し、支援する。			
	R6				
	R7				
	R3	関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。		北海道医師会	
	R4	関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。			
	R5	依頼に基づき、協力を検討いたします。			
	R6				
	R7				
	R3	－		北海道精神科病院協会	
	R4	断酒会、AA等の自助グループとの連携し、長期断酒を応援する。他の薬物やギャンブル等の依存症、うつ病や認知症等の重複障害を含む治療を行い、断酒を図る。	B		
	R5	断酒会、AA等の自助グループとの連携し、長期断酒を応援する。他の薬物やギャンブル等の依存症、うつ病や認知症等の重複障害を含む治療を行い、断酒を図る。			
	R6				
	R7				
	R3	アルコール問題の背景にある気分障害や発達障害等について診断と治療を行う。	B	北海道精神神経科診療所協会	
	R4	アルコール問題の背景にある気分障害や発達障害等について診断と治療を行う。	B		
	R5	アルコール問題の背景にある気分障害や発達障害等について診断と治療を行う。			
	R6				
	R7				

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	医療保健機関や自助グループとも連携し、引き続き対人コミュニケーションならびに心的外傷が認められる人への臨床心理学的アプローチに努めていく。	D	北海道臨床心理士会
		R4	・医療保健機関や自助グループとも連携し、引き続き対人コミュニケーションならびに心的外傷が認められる人への臨床心理学的アプローチに努めた。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席をし、本会会員への情報共有を図った。 ・ZOOMにて依存症支援についての情報交流会を開催し、当会会員の依存症支援についての知識と技術の向上を図った。 ・新年度より、医療保健領域委員会内に、新たにアディクション担当者を設置し、より専門的な研修や啓発活動を行った。	B	
		R5	・医療保健機関や自助グループとも連携し、引き続き対人コミュニケーションならびに心的外傷が認められる人への臨床心理学的アプローチに努める。 ・日本臨床心理士会全国アディクション担当者研修会への出席をし、本会会員への情報共有を図る。		
		R6			
		R7			
		R3	随時対応（家族会支援を含める）	B	北海道精神保健福祉士協会
		R4	随時対応（家族会支援を含める）	B	
		R5	情報収集・提供を含めて、随時対応（家族会支援を含める）		
		R6			
		R7			
		R3	会員が所属する機関において家族を対象としたグループや面接を担当しており、実践の情報の共有と検討を行う。	C	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部
		R4	コロナ禍以前と同様にできることを目標としていく。会員が所属する機関において業務の一環として取り組んだが、昨年度は精神科病院でのクラスターが多発し、対外的な活動は縮小せざるを得ない場面が多く見られた。	C	
		R5	感染縮小傾向に敏感に反応し、より積極的に状況の把握と情報の発信に努める。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度 令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		・家族を対象とした「家族セミナー」を開催し、専門医療機関の医師による講話・自助グループの紹介・体験談発表・自助グループメンバーによる相談会などを実施した。 R3 ・当センター作成の「依存症相談窓口・依存症専門医療機関周知チラシ」及び各種リーフレット類の配架、当センターホームページ・SNS等においての情報発信を行い、普及啓発を図った。 ・「札幌市依存症相談窓口」等に相談があった相談者が、専門医療機関及び自助グループ等につながるよう支援した。	B	札幌こころのセンター
		・「家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について家族等が学ぶ機会を提供した。 (第1回8/3(3名参加)、第2回1/18(6名参加)開催。第3回3/10開催予定。) R4 ・「札幌市依存症相談窓口」において、本人・家族等へ電話・面接等で専門相談を実施し、相談者が専門医療機関及び自助グループ等につながるよう支援した。 ・家族が本人と望ましいコミュニケーション等を学ぶためのプログラムを作成し、「家族向け教室」の実施について調整を図った。	B	
		・「家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について家族等が学ぶ機会を提供する。 ・「札幌市依存症相談窓口」において、本人・家族等へ電話・面接等で専門相談を実施し、相談者が専門医療機関及び自助グループ等につながるよう支援する。 ・家族が本人と望ましいコミュニケーション等を学ぶためのプログラムを活用した「家族向け教室」を実施する。 R5		
		R6		
		R7		
		R3 家族向けのパンフレットの作成を予定していたが、発行に至らなかった。	C	依存症治療拠点機関
		R4 家族向けのパンフレットを作製し発行した。	B	
		R5 家族向けパンフレットの活用の仕方などの工夫をおこなう。		
		R6		
		R7		
		R3 HP等による情報提供、事業主セミナー(9/30)を通じ啓発を図った。	B	北海道産業保健総合支援センター
		R4 HP等による情報提供を行った。事業主セミナーは開催できなかった。	B	
		R5 HP等による情報提供。事業主セミナーを通じ啓発を行う。		
		R6		
		R7		
		R3 相談や治療の際に、当事者と家族に必要な情報を提供し、家族のアルコール依存症への理解を支援した。	B	札幌医科大学医学部神経精神医学講座
		R4 相談や治療の際に、当事者と家族に必要な情報を提供し、家族のアルコール依存症への理解を支援した。	B	
		R5 相談や治療の際に、当事者と家族に必要な情報を提供し、家族のアルコール依存症への理解を支援する。		
		R6		
		R7		

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	(当初の予定行事を開催見合わせ)	D	北海道断酒連合会
		R4	例会や研修会のほか電話による相談を実施	B	
		R5	例会や研修会のほか電話による相談を実施(予定)		
		R6			
		R7			
		R3	家族に対するプログラムは行っていないが、本人への対応のアドバイスは行った。要請があれば、研修等で施設の概要や経験談を発表した。	B	札幌マック
		R4	家族に対する支援の資料を確保し、家族の回復への情報提供を行った。要請があれば研修等で施設の概要やプログラムの説明、当事者の経験談の提供を行った。がしかし、家族に対する支援の資料の確保が進まなかった。	C	
		R5	家族に対する支援の資料を確保し、家族の回復への情報提供を行う。要請があれば研修等で施設の概要やプログラムの説明、当事者の経験談の提供を行う。		
		R6			
		R7			
		R3	家族に対するプログラムは行っていないが、本人への対応のアドバイスは行った。要請があれば、研修等で施設の概要や経験談を発表した。	B	札幌マック女性共同作業所
		R4	家族に対する支援の資料を確保し、家族の回復への情報提供を行った。要請があれば研修等で施設の概要やプログラムの説明、当事者の経験談の提供を行った。がしかし、7月より活動を休止したことにより資料の確保、当事者(アルコール依存)の経験談の提供などが行えなくなった。	D	
		R5	家族に対する支援の資料を確保し、家族の回復への情報提供を行う。要請があれば研修等で施設の概要やプログラムの説明、当事者の経験談の提供を行う。		
		R6			
		R7			
	・職域においては、就労及び復職が偏見なく行われるよう、職場における理解や支援を促進します。	R3	関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。		北海道医師会
		R4	関係団体などからの依頼がなく、対応しておりません。		
		R5	依頼に基づき、協力を検討いたします。		
		R6			
		R7			
		R3	—		北海道精神科病院協会
		R4	断酒会、AA等の自助グループとの連携し、長期断酒を応援する。他の薬物やギャンブル等の依存症、うつ病や認知症等の重複障害を含む治療を行い、断酒を図る。	B	
		R5	断酒会、AA等の自助グループとの連携し、長期断酒を応援する。他の薬物やギャンブル等の依存症、うつ病や認知症等の重複障害を含む治療を行い、断酒を図る。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度 令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3 アルコール問題の背景にある気分障害や発達障害等について診断と治療を行う。	B	北海道精神神経科診療所協会
		R4 アルコール問題の背景にある気分障害や発達障害等について診断と治療を行う。	B	
		R5 アルコール問題の背景にある気分障害や発達障害等について診断と治療を行う。		
		R6		
		R7		
		R3 事業主、産業保健スタッフ向けセミナー（9/30）、産業医研修会（10/28）を開催した。	B	北海道産業保健総合支援センター
		R4 事業主、産業保健スタッフ向けセミナー及び産業医研修会は開催できなかった。	B	
		R5 事業主、産業保健スタッフ向けセミナーの開催。産業医研修会開催する。		
		R6		
		R7		

様式1 第2期北海道アルコール健康障害対策推進計画に係る取組状況一覧

<評価欄の見方>
A：取組は概ね達成（実施）した（取組としては終了）。
B：取組は概ね達成（実施）した（引き続き取り組む必要がある）。
C：取組は一定程度進んでいる。
D：取組はあまり進んでいない。

再発予防（三次予防）
(2) 民間団体の活動に対する支援

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
○自助グループ等との連携 推進	・精神保健福祉センター、 保健所、市町村等において は、自助グループ等を地域の 貴重な社会資源とし、相談等 の事業を協働して実施する とともに活動の周知に協力し、 必要な支援を行います。	R3	地域の相談拠点として、住民や関係機関等からの相談に対応し地域の社会資源と連携した支援を行った。	B	道立保健所
		R4	地域の相談拠点として、住民や関係機関等からの相談に対応し地域の社会資源と連携した支援を行った。	B	
		R5	地域の相談拠点として、住民や関係機関等からの相談に対応し地域の社会資源と連携した支援を行う。		
		R6			
		R7			
		R3	相談者の状況に応じ、必要な社会資源を紹介し、関係機関との連携を取りながら支援を図った。	B	北海道立精神保健福祉センター
		R4	相談者の状況に応じ、必要な社会資源を紹介し、関係機関との連携を取りながら支援を図った。	B	
		R5	相談者の状況に応じ、必要な社会資源を紹介し、関係機関との連携を取りながら支援を図る。		
		R6			
		R7			
		R3	・家族を対象とした「家族セミナー」を開催し、専門医療機関の医師による講話・自助グループの紹介・体験談発表・自助グループメンバーによる相談会などを実施した。 ・自助グループと依存症専門医療機関が協働開催した講座について、企画や周知に協力した。 ・自助グループが作成する機関紙について、相談窓口の他、区役所にも配架し、自助グループの活動について、より多くの市民への普及を図った。	B	札幌こころのセンター
		R4	・自助グループ等を講師とした「家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行った。（第1回8/3(3名参加)、第2回1/18(6名参加)開催。第3回3/10開催予定。） ・自助グループが作成する機関紙について、相談窓口の他、区役所にも配架し、自助グループの活動について、より多くの市民への普及を図った。	B	
		R5	・自助グループ等を講師とした「家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行う。 ・自助グループが作成する機関紙について、相談窓口の他、区役所にも配架し、自助グループの活動について、より多くの市民への普及を図る。		
		R6			
		R7			
		R3	依頼照会等に対して情報提供を実施	B	北海道断酒連合会
		R4	依頼照会等に対して情報提供を実施	B	
		R5	依頼照会等に対して情報提供を実施		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	自助グループの活動の現況を把握し、相談対応に役立てた。	B	札幌マック
		R4	自助グループの活動の現況を把握し、相談対応に役立てた。	B	
		R5	自助グループの活動の現況を把握し、相談対応に役立てる。		
		R6			
		R7			
		R3	自助グループの活動の現況を把握し、相談対応に役立てた。	B	札幌マック女性共同作業所
		R4	自助グループの活動の現況を把握し、相談対応に役立てた。7月より作業所の活動は休止となっているが、情報提供は行えた。	B	
		R5	自助グループの活動の現況を把握し、相談対応に役立てる。		
		R6			
		R7			
	・自助グループや回復施設を利用した回復者の体験談や回復事例などを広く道民に紹介すること等により、回復支援における自助グループの役割や意義を広く啓発し、社会全体での自助グループに関する認知度を高めます。また、アルコール依存症者の回復支援に当たっては、その家族へ支援や女性及び高齢者特有の問題に配慮した対応が必要であることを周知します。	R3	自助グループ等の情報について当課ホームページ(依存症対策支援機関アクセスマップ)に掲載し、関係機関へ周知した。啓発週間では、アルコール関連問題啓発週間ポスターを関係機関に配布し啓発を依頼、SNSでの掲載(北海道健康づくりTwitter)やイベントでの配布による周知。道庁1階のホール等を活用したポスターの掲示、リーフレット等設置(10/15～10/17)による普及啓発を実施した。 モデル大学普及啓発事業についてモデル大学の協力・連携による「依存症Web講演会」(10/19オンライン開催)を企画実施し、当事者体験談を含む講演を行った。 普及啓発セミナー(11/27オンライン開催)を企画、関係機関、道内大学へ周知し実施した。 大学生に向けた啓発用の依存症リーフレットを作成し、大学学生相談室あて送付し相談での活用を依頼した。	B	保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課
		R4	アルコール健康障害・依存症予防啓発ポスターの配布(道医師会の7月医報同封により8,500部送付)した。オンライン道民健康セミナーを開催(8/6午後オンライン開催・8/8～8/22オンデマンド配信)した(当日視聴26人・オンデマンド配信視聴101人)。プログラム:アルコール摂取と健康への影響(北海道大学病院消化器内科 中井医師)、お酒のことで困ったら(手稲溪仁会病院精神保健科 白坂医師)	B	
		R5	啓発資料やホームページ等を活用し普及啓発を行う。		
		R6			
		R7			
		R3	ホームページ等により飲酒による影響等について普及啓発を行った。	B	道立保健所
		R4	ホームページ等により飲酒による影響等について普及啓発を行った。	B	
		R5	ホームページ等により飲酒による影響等について普及啓発を行う。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3	市町村や地域包括支援センターが開催する研修会や啓発活動等において、自助グループの意義や役割への理解が深まるような取組の推進について検討。	B	保健福祉部高齢者支援局高齢者保健福祉課
		R4	市町村や地域包括支援センターが開催する研修会や啓発活動等において、自助グループの意義や役割への理解が深まるような取組の推進について検討する機会を持つことが十分にできていない。	D	
		R5	市町村や地域包括支援センターが開催する研修会や啓発活動等において、依存症専門医療機関が作成したパンフレットを活用するなどして高齢者特有の問題に配慮した対応への周知や、自助グループの意義や役割への理解が深まるような取組の推進について検討。		
		R6			
		R7			
		R3	女性の健康週間（3月上旬頃）の普及啓発の取組の中で、市町村に対し依存症の理解のためのリーフレット活用を促した。	B	保健福祉部子ども未来推進局子ども子育て支援課
		R4	女性の健康週間（3月上旬頃）において、アルコール問題や回復施設の情報等の理解が深まるような周知を行う。	B	
		R5	女性の健康週間（3月上旬頃）において、アルコール問題や回復施設の情報等の理解が深まるような周知を行う。		
		R6			
		R7			
		R3	アルコール問題を抱える人を自助グループにつなげ、ミーティングに参加し続けられるよう支援する。	B	北海道精神科診療所協会
		R4	アルコール問題を抱える人を自助グループにつなげ、ミーティングに参加し続けられるよう支援する。	B	
		R5	アルコール問題を抱える人を自助グループにつなげ、ミーティングに参加し続けられるよう支援する。		
		R6			
		R7			
		R3	会員が所属する機関において、当事者家族と関わる際に自助グループの意義や回復者の経験を伝えることで一定の効果を見込んでいる。また、行事等の依頼があれば講師等にて当該目標の周知に協力する。コロナ禍で以前よりは縮小しているが、それぞれのケースに關与する過程においてこの課題にも配慮した。	B	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部
		R4	R3と同様の活動为目标とする。会員が所属する機関において業務の一環として取り組んだが、昨年度は精神科病院でのクラスターが多発し、対外的な活動は縮小せざるを得ない場面が多く見られた。	C	
		R5	感染縮小傾向に敏感に反応し、回復者施設や自助グループとの連携強化に努める。		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度 令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3 ・家族を対象とした「家族セミナー」を開催し、専門医療機関の医師による講話・自助グループの紹介・体験談発表・自助グループメンバーによる相談会などを実施した。 ・自助グループと依存症専門医療機関が協働開催した講座について、企画や周知に協力した。 ・自助グループが作成する機関紙について、相談窓口の他、区役所にも配架し、自助グループの活動について、より多くの市民への普及を図った。	B	札幌こころのセンター
		R4 ・自助グループ等を講師とした「家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行った。（第1回8/3(3名参加)、第2回1/18(6名参加)開催。第3回3/10開催予定。） ・自助グループが作成する機関紙について、相談窓口の他、区役所にも配架し、自助グループの活動について、より多くの市民への普及を図った。	B	
		R5 ・自助グループ等を講師とした「家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行う。 ・自助グループが作成する機関紙について、相談窓口の他、区役所にも配架し、自助グループの活動について、より多くの市民への普及を図る。		
		R6		
		R7		
		R3 機関紙等により活動を紹介	B	北海道断酒連合会
		R4 機関紙等により活動を紹介	B	
		R5 機関紙等により活動を紹介（予定）		
		R6		
		R7		
		R3 近隣の自助グループや他の回復支援施設と繋がりを持ち、必要な時には情報の開示・共有に努めた。	B	札幌マック
		R4 近隣の自助グループや他の回復支援施設と繋がりを持ち、必要な時には情報の開示・共有に努めた。	B	
		R5 近隣の自助グループや他の回復支援施設と繋がりを持ち、必要な時には情報の開示・共有に努める。		
		R6		
		R7		
		R3 近隣の自助グループや他の回復支援施設と繋がりを持ち、必要な時には情報の開示・共有に努めた。	B	札幌マック女性共同作業所
		R4 近隣の自助グループや他の回復支援施設と繋がりを持ち、必要な時には情報の開示・共有に努めた。7月より事業所の都合により活動を休止としているが、取り組み内容については、可能な範囲で取り組んだ。	B	
		R5 近隣の自助グループや他の回復支援施設と繋がりを持ち、必要な時には情報の開示・共有に努める。		
		R6		
		R7		

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度	令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
・アルコール関連問題に関する啓発に関し、自助グループや関係団体等と連携し、より効果的な理解促進のための取組を推進します。	R3	R3	必要に応じて、地域の自助グループや関係団体の活動を把握しながら、リーフレットやホームページによる啓発活動を行っているが、新型コロナウイルス感染症の影響から効果的な啓発活動を検討する機会が少ない現状である。	C	道立保健所
		R4	地域の自助グループや関係団体の活動を把握しながら、必要に応じて助言等を実施した。	B	
		R5	地域の自助グループや関係団体の活動を把握しながら、リーフレットやホームページによる啓発活動を行う。		
		R6			
		R7			
		R3	全道域で活動する精神保健福祉団体に対する支援協力を行った。 自助グループと連携し、アディクションフォーラム運営に対しては新型コロナ感染症のまん延により開催はされていない。	B	北海道立精神保健福祉センター
		R4	全道域で活動する精神保健福祉団体に対する支援協力を行った。 支援を予定していた自助グループ主催のアディクションフォーラムは新型コロナウイルス感染症のまん延により開催はされなかった。	B	
		R5	全道域で活動する精神保健福祉団体等に対する支援協力を図る。		
		R6			
		R7			
	R3	R3	・家族を対象とした「家族セミナー」を開催し、専門医療機関の医師による講話・自助グループの紹介・体験談発表・自助グループメンバーによる相談会などを実施した。	B	札幌こころのセンター
		R4	・自助グループと依存症専門医療機関が協働開催した講座について、企画や周知に協力した。 ・自助グループが作成する機関紙について、相談窓口の他、区役所にも配架し、自助グループの活動について、より多くの市民への普及を図った。	B	
		R5	・自助グループ等を講師とした「家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行う。 ・自助グループが作成する機関紙について、相談窓口の他、区役所にも配架し、自助グループの活動について、より多くの市民への普及を図る。		
		R6			
		R7			
	R3	R3	S B I R T S 普及促進セミナーの実施 ・SBIRTS：早期での発見・介入・治療に自助グループの活動を加えた取り組み	B	北海道断酒連合会
		R4	S B I R T S 普及促進に向けた要員養成の取組（上部組織主催の研修会に当事者および家族が参加） ・SBIRTS：早期での発見・介入・治療に自助グループの活動を加えた取り組み	B	
		R5	S B I R T S 普及促進セミナーの実施（R5年6月10日開催予定） ・SBIRTS：早期での発見・介入・治療に自助グループの活動を加えた取り組み		
		R6			
		R7			

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度 令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		R3 会議・研修への積極的参加を通して、連携に寄与できる体制を整えた。	B	札幌マック
		R4 会議・研修への積極的参加を通して、連携に寄与できる体制を整えた。	B	
		R5 会議・研修への積極的参加を通して、連携に寄与できる体制を整える。		
		R6		
		R7		
		R3 会議・研修への積極的参加を通して、連携に寄与できる体制を整えた。	B	札幌マック女性共同作業所
		R4 「会議・研修への積極的参加を通して、連携に寄与できる体制を整える。」と計画したが、事業所の体制作りが優先課題となったことから、取り組み内容の実現はなかなか出来なかった。	D	
		R5 会議・研修への積極的参加を通して、連携に寄与できる体制を整える。		
		R6		
		R7		
○自助グループ等への支援	・自助グループ等が活動しやすいように、関係機関と連携を図り、それぞれの団体の機能に応じた役割を果たす機会や場所を提供するなど、自助グループ等の活動の支援に努めます。	R3 自助グループの活動を把握し情報共有を図るとともに、自助グループと連携した相談支援を行った。	B	道立保健所
		R4 自助グループの活動を把握し情報共有を図るとともに、自助グループと連携した相談支援を行った。	B	
		R5 自助グループの活動を把握し情報共有を図るとともに、自助グループと連携した相談支援を行う。		
		R6		
		R7		
		R3 必要に応じて自助活動に取り組めるよう助言等を行う。	B	北海道立精神保健福祉センター
		R4 必要に応じて自助活動に取り組めるよう助言等を行った。	B	
		R5 必要に応じて自助活動に取り組めるよう助言等を行う。		
		R6		
		R7		
		R3 会員はそれぞれの所属する機関において自助グループや回復者施設等と連携を取り、患者の紹介やプログラムで紹介ミーティングを行う。	B	日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会北海道支部
		R4 R3と同様の活動を目標とする。会員が所属する機関において業務の一環として取り組んだが、昨年度は精神科病院でのクラスターが多発し、対外的な活動は縮小せざるを得ない場面が多く見られた。	C	
		R5 感染縮小傾向に敏感に反応し、回復者施設や自助グループとの連携強化に努める。		
		R6		
		R7		

第2期北海道アルコール対策推進計画 の具体的取組		年度 令和3年度～7年度における取組状況	評価	関係機関
		・家族を対象とした「家族セミナー」を開催し、専門医療機関の医師による講話・自助グループの紹介・体験談発表・自助グループメンバーによる相談会などを実施した。 R3 ・自助グループと依存症専門医療機関が協働開催した講座について、企画や周知に協力した。 ・自助グループが作成する機関紙について、相談窓口の他、区役所にも配架し、自助グループの活動について、より多くの市民への普及を図った。	B	札幌こころのセンター
		・自助グループ等を講師とした「家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行った。（第1回8/3(3名参加)、第2回1/18(6名参加)開催。第3回3/10開催予定。） ・自助グループが作成する機関紙について、相談窓口の他、区役所にも配架し、自助グループの活動について、より多くの市民への普及を図った。	B	
		・自助グループ等を講師とした「家族セミナー」を開催し、依存症に関する知識、相談先、医療機関、自助グループ等について啓発を行う。 ・自助グループが作成する機関紙について、相談窓口の他、区役所にも配架し、自助グループの活動について、より多くの市民への普及を図る。		
		R6		
		R7		
		R3 各地域において例会を実施	B	北海道断酒連合会
		R4 例会や研修会などを実施	B	
		R5 例会や研修会などを実施（予定）		
		R6		
		R7		
		R3 市内及び道内の自助グループの活動状況を把握し、相談対応には正確な情報を伝え、合わせて自助グループの概要も説明した。	B	札幌マック
		R4 市内及び道内の自助グループの活動状況を把握し、相談対応には正確な情報を伝え、合わせて自助グループの概要も説明した。	B	
		R5 市内及び道内の自助グループの活動状況を把握し、相談対応には正確な情報を伝え、合わせて自助グループの概要も説明する。		
		R6		
		R7		
		R3 市内及び道内の自助グループの活動状況を把握し、相談対応には正確な情報を伝え、合わせて自助グループの概要も説明した。	B	札幌マック女性共同作業所
		R4 市内及び道内の自助グループの活動状況を把握し、相談対応には正確な情報を伝え、合わせて自助グループの概要も説明した。件数は少なく、対応の機会も減少したが、姿勢的な取り組みは継続できた。	B	
		R5 市内及び道内の自助グループの活動状況を把握し、相談対応には正確な情報を伝え、合わせて自助グループの概要も説明する。		
		R6		
		R7		